

国立国会図書館



記憶をつなぐ

一東日本大震災関連資料の収集への取り組み

電子展示会「錦絵でたのしむ江戸の名所」

2014.3
No. 636

国立国会図書館利用案内

東京本館

所在地 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話番号 03(3581)2331
利用案内 03(3506)3300(音声サービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
ただし、満18歳未満の方には、個別に相談に応じています。詳しくはホームページをご覧ください。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和洋の図書、和雑誌、洋雑誌(年刊誌、モノグラフシリーズの一部)、和洋の新聞、各専門室資料

サービス時間

開館時間	月～金曜日 9:30～19:00 土曜日 9:30～17:00 ※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の開室時間は17:00までです。	即日複写受付	月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～16:00
資料請求受付★	月～金曜日 9:30～18:00 土曜日 9:30～16:00 ※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。	後日郵送複写受付★	月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:30

★登録利用者限定のサービスです。

■見学のお申込み／国立国会図書館 利用者サービス部 サービス運営課 03(3581)2331 内線25211

関西館

所在地 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3
電話番号 0774(98)1200(音声サービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
ただし、満18歳未満の方には、個別に相談に応じています。詳しくはホームページをご覧ください。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語資料・アジア関係資料(図書、雑誌、新聞)、科学技術関係資料、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

サービス時間

開館時間	月～土曜日 10:00～18:00	即日複写受付	月～土曜日 10:00～17:00
資料請求受付★	月～土曜日 10:00～17:15	後日郵送複写受付★	月～土曜日 10:00～17:45
セルフ複写受付	月～土曜日 10:00～17:30	★登録利用者限定のサービスです。	

■見学のお申込み／国立国会図書館 関西館 総務課 0774(98)1224 [直通]

国際子ども図書館

所在地 〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49
電話番号 03(3827)2053
利用案内 03(3827)2069(音声サービス)
ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>
利用できる人 どなたでも利用できます。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 月曜日、国民の祝日・休日(5月5日こどもの日は開館)、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
※第一・第二資料室は、休館日のほか日曜日に休室します。メディアふれあいコーナーと本のミュージアムは、行事等のため休室することがあります。
おもな資料 国内外の児童図書・児童雑誌、児童書関連資料

サービス時間

開館時間	火～日曜日 9:30～17:00	※1階子どものへや、世界を知るへや、3階メディアふれあいコーナー、本のミュージアムの利用時間は、開館時間と同じく9:30～17:00です。		
第一・第二資料室の利用時間	閲覧時間	火～土曜日 9:30～17:00	資料請求受付	火～土曜日 9:30～16:30
複写サービス時間	即日複写受付	火～日曜日 10:00～16:00	後日郵送複写受付	火～日曜日 10:00～16:30
	複写製品引渡し	火～日曜日 10:30～12:00 13:00～16:30		

■見学のお申込み／国立国会図書館 国際子ども図書館 03(3827)2053 [代表]

CONTENTS

- 02 本朝名刺尽 『名紙譜』・「宇田川榕庵名刺」・『張交帖』～名刺の歴史をたどって～
今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から
- 04 記憶をつなぐ—東日本大震災関連資料の収集への取り組み
- 08 本の森を歩く 第12回 3・11から生まれた本 続
- 20 ようこそ、心躍るひとときへ—蘆原英了コレクションの世界—
3. サーカス
- 26 電子展示会「錦絵でたのしむ江戸の名所」

18 本屋にない本

- 『東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会平成23年度活動報告書』
- 『東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会平成24年度活動報告書』
- 『語ろう！文化財レスキュー 被災文化財等救援委員会公開討論会報告書』

30 館内スコープ

愛すべき製本用具たち

31 お知らせ

- 平成26年度国立国会図書館図書館情報学実習生を募集します
- 平成26年度国立国会図書館職員採用試験
- 消費税率の引上げに伴う複写料金等の取扱いについて
- 国際子ども図書館展示会「絵本で知る世界の国々—IFLAからのおくりもの」
- 本の万華鏡(第15回)「もう一つの東京オリンピック」
- 新刊案内 国立国会図書館の編集・刊行物

本朝名刺尽 『名紙譜』・「宇田川榕庵名刺」・『張交帖』 ～名刺の歴史をたどって～

大沼 宜規

名刺は、現代のビジネスでも欠かせないものだが、江戸時代には既に存在していた。

写真1は、江戸通の蔵書家三村竹清ちくせいから同好の林若樹わかきへと伝わった『名紙譜』の複製。三村の小文「輪池輯名紙譜」¹によれば、幕臣・和学者であった屋代弘賢やしろひろかた（1758-1841）が、「一ととせ年賀に來りし人々の名刺を貼り置きしもの」とのこと。「大かた自筆なる上に、弘賢一々其人柄を頭書」している。ここでいう人柄は肩書といったところか。名刺には名前だけが記されているので、受取った屋代がメモを加えているのである。収録人数は52人だが陣容がすごい。寛政三博士のひとり古賀精里せいり、奥儒者成島司直なるしまもとなお、文人大田南畝なんぼ、戯作者紀定丸きのさだまること吉見儀助、漢詩人で書家の市河米庵べいあん、和学者石原正明まさあきら・奈佐勝臈な さかつたか、松平定信の側近水野為長、屋代とともに関西の社寺調査にあたった絵師住吉内記……よく知られた名が少なくない。さすがは当時の学者や文人の結節点となっていたとされる屋代弘賢である。学者や文人ばかりではない。たとえば、刀好きなら知らない人がいない刀工水心子正秀すいしんしまさひでもそのひとり。復古刀²を提唱した名工水心子と好古の学者屋代との交流は、古を尊ぶ歴史意識を軸として分野を超えたつながりが広がっていたことを示すようで、まことに興味深い。屋代弘賢の水心子に対する評価は「鍛冶達人」であった。

『名紙譜』は日本の名刺を伝える古い例として知られているが³、原本の所在が分からない。ところが、幸い当館によく似た別本の「名紙譜」が所蔵されている（写真2）。天保10（1839）年頃に屋代を訪ねた人物の名刺を集めた資料で、高名な人物は見当たらないものの、24人の名刺が貼付され

ている。写真1の原本の雰囲気を知り手がかりになろう。

それにしても、当館の「名紙譜」を見ると、名刺の大きさもまちまちだし、紙も多くは特別なものとは思えない。端を上手に切れていないものもある。だが、当時でももう少し立派な名刺はある。写真3は、蘭学者宇田川榕庵ようあん（1798-1846）の名刺で「W. JOOÄN.」と刷られている。紙も厚めで概ね現在と似た形状。宇田川の弟子にあたる理学者伊藤圭介（1803-1901）の旧蔵品である。伊藤が長崎の出島でシーボルトと面会した際にやりとりした「ポルトフォリオ」（紙ばさみ）中にあったもの、と伊藤の孫篤太郎が包紙に記している。とすれば、宇田川がシーボルトに渡したものが挟まっていたのか。あるいは後に紛れ込んだのか。いずれにせよ、西洋の風習の伝播により「幕末開国のころに外国人と接する役人たちが使った⁴」のが嚆矢とされる印刷名刺を、少し早く作っていた人もいたようだ。

さて、写真4左は、国学者・美術史家の小杉樞軒すきむら（1834-1910）の名刺である。ご覧のとおり自筆であるが、書家としても名高い人だけに堂々としたものである。写真4中・右は、国学者で貴族院議員であった福羽美静ふくぼせい（1831-1907）、京都の古典籍蒐集家田中勘兵衛（1838-1934）の名刺である。時代もここまで下ると、紙の大きさも厚さも現在のものと変わらない。いずれも明治時代半ばのものである。

ここまで書いてきて、ふと机の抽斗に貯まった名刺を見た。貼り込みにすれば100年後に喜ぶ好事家もあるか……手にとってはみたが、持ち主がシガナイ公務員では誰も見向きもすまい。改めて机にしまいこんだ次第である。

（おおぬま よしき 利用者サービス部人文課）

写真1

『名紙譜』 屋代弘賢 編 林欣二 昭和14 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1117166>

写真左は第1丁裏から第2丁表(4コマ目)、写真右は第5丁裏から第6丁表(8コマ目)。写真左の左から二人目が大田南畝(直次郎)、写真右の最も左が水心子正秀。



写真2

『名紙譜』 屋代弘賢 編
 (『不忍叢書』 第15冊所収)
 <請求記号 183-384 >

二宮半右衛門(右から2枚目)の右肩の「天保十一六」は屋代の筆跡と思われる。裏写りしているのも屋代の覚え。左丁を見ると、名刺の上部に穴があいている。紙縫りか紐で纏めていたのであろうか。

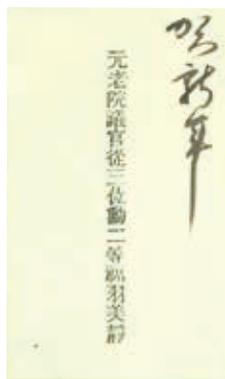
写真3

「宇田川榕庵名刺」
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2541676>



写真4

小杉樞郎、福羽美静、田中勘兵衛の名刺。『張交帖』 <請求記号 本別9-24 >より。本書は明治時代の素封家で国学者、貴族院議員もつとめた根岸武香(1839-1902)のスクラップブックである。



小杉(第5冊)

福羽(第1冊)

田中(第2冊)

参考写真

池田長発ながおきがバリで作った名刺。『幕末外交使節池田筑後守』 53頁 小林久磨雄 著 恒心社 昭和9 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1208468/41> (国立国会図書館/図書館送信限定公開)



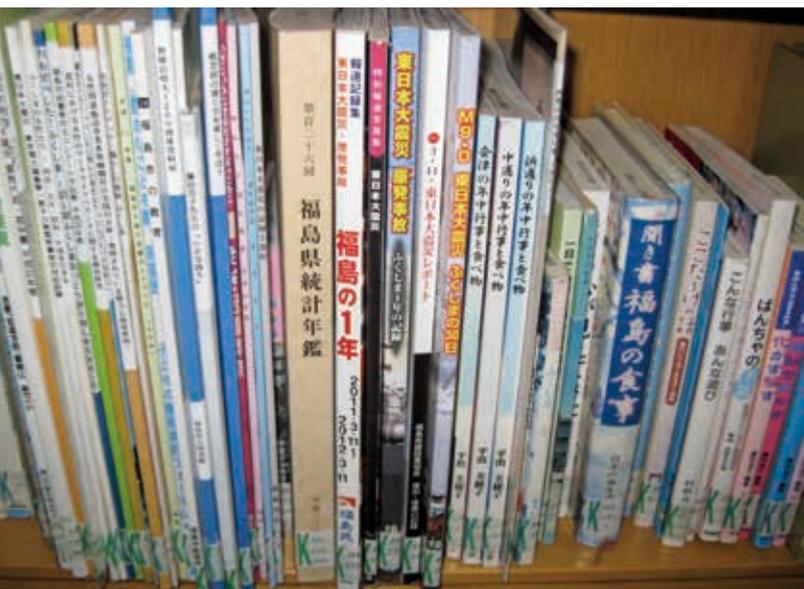
『Ikeda Tsikougo-no-kami Ambassadeur du S.M. le Taicoun du Japon』(大君の使節池田筑後守)とある。漢字も池田家の揚羽蝶の紋も見事。「筑」が「筑」になっている。

- 1 三村清三郎 著、肥田皓三、中野三敏 編 『三村竹清集』 2 青裳堂書店 1982 <請求記号 UM11-95 > 177~178頁。
- 2 江戸時代後期に古い名刀を手本として製作された刀のこと。水心子正秀は刀の実用性を重視し、鎌倉時代の刀を理想とする復古刀の理論を提唱した。
- 3 『世界大百科事典』第28巻 改訂新版 平凡社 2007 <請求記号 UR1-J31 > 「名刺」の項目。
- 4 前掲註3より。石井研堂によれば、安政元(1854)年の正月にアメリカ使節団に渡したとの記事や、万延元(1860)年の遣米使節が米国人に名刺を請われ

た記事などがあるとのことである。(石井研堂「名刺の使用」『明治文化研究』4巻4号(通号34号)1928年38頁 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1495479/27> (国立国会図書館内限定公開))
 また、万延元年の遣米使節の一員木村喜毅(撰津守、芥舟)がアメリカで作成したとされる名刺や、文久の遣欧使節となった池田長発(筑後守)がバリで作成した名刺も有名である(参考写真)。なお、木村撰津守の名刺は、『木村芥舟とその資料 旧幕臣の記録』 横浜開港資料館 編 横浜開港資料普及協会 1988)13頁 <請求記号 GK74-E16 > に写真が掲載されている。

記憶をつなぐ

—東日本大震災関連資料の収集への取り組み



「福島市子どもライブラリー」郷土資料コーナーの資料

国立国会図書館は、平成25年3月7日にポータルサイト「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（ひなぎく）」¹を公開しました。当館では、「ひなぎく」のコンテンツを充実することを目的として、「東日本大震災アーカイブ収集実施計画」に基づき、被災各県の県立図書館をはじめとする公共図書館等との連携・協力を得て東日本大震災関連資料の収集に取り組んでいます。大震災からすでに3年が経過し、大震災関連資料が散逸することが危惧されるため積極的な収集を進めており、平成25年度は主として、県立図書館の所蔵データをもとにした収集活動と、被災各県の県立図書館と連携し、市町村立図書館との図書館協力の仕組みを利用した収集活動を実施しました。その概要をご紹介します。

1 県立図書館の所蔵データを

もとにした収集活動

東日本大震災関連の出版物は、被災各県を中心とした地域で発行されることが多いのですが、当館では地域資料についての情報を入手することが難しく、収集活動における課題となっています。

一方、岩手・宮城・福島の3県立図書館は、図書館共同キャンペーン「震災記録を図書館に」²に参加しており、収集した大震災関連資料の書誌には、例えば「東日本大震災」のような件名を付与するなどして、識別できるようにしています³。そこで、平成24年度から平成25年度にかけて、3県の県立図書館からこれらの書誌データを提供していただき、当館からは当館所蔵の大震災関連資料の書誌データを送付しました。当館では提供された各県の書誌データを基に当館の所蔵を調査し、未所蔵資料がどのくらいあるのか調査を行いました。

平成25年1月下旬の第1回目のデータ交換で判明した当館の所蔵状況は、岩手県立図書館の「震災関連資料コーナー」の資料が総数1,021点あるうち、当館の所蔵が885点（86.7%）、未所蔵が136点（13.3%）、宮城県図書館の「東日本大震災文庫」が総数1,128点で当館所蔵が1,009点（82.3%）、未所蔵が119点（17.7%）、福島県立図書館の「東日本大震災福島県復興ライブラリー」が総数2,883点で当館所蔵が2,499点（86.7%）、未所蔵が384

点（13.3%）でした。この調査で判明した当館未所蔵資料については、順次、出版した機関・団体等に対して納本をお願いし、平成25年12月末現在の所蔵率は、それぞれ、92.3%、94.9%、88.4%に向上しました。

県立図書館の書誌データを利用して所蔵調査を行うことは、これが初めての試みでしたが、データ交換により、岩手・宮城・福島の各県と、それぞれ数千件の単位で書誌データを照合することができ、当館の蔵書を見直すことができたという点でも大変有意義でした。

なお、その後、その他の県についても県立図書館のホームページ等を調査したところ、埼玉県立浦和図書館が開催した「埼玉防災資料展」の「防災資料リスト」が公開されていることが分かりました。このリストを利用して当館の所蔵調査を行い、未所蔵資料については納本をお願いしました。これにより、データ交換を行うことができない場合でも、県立図書館が収集した防災関係資料や地域資料等の展示リスト等を当館未所蔵資料調査の情報源として利用できることが分かりました。

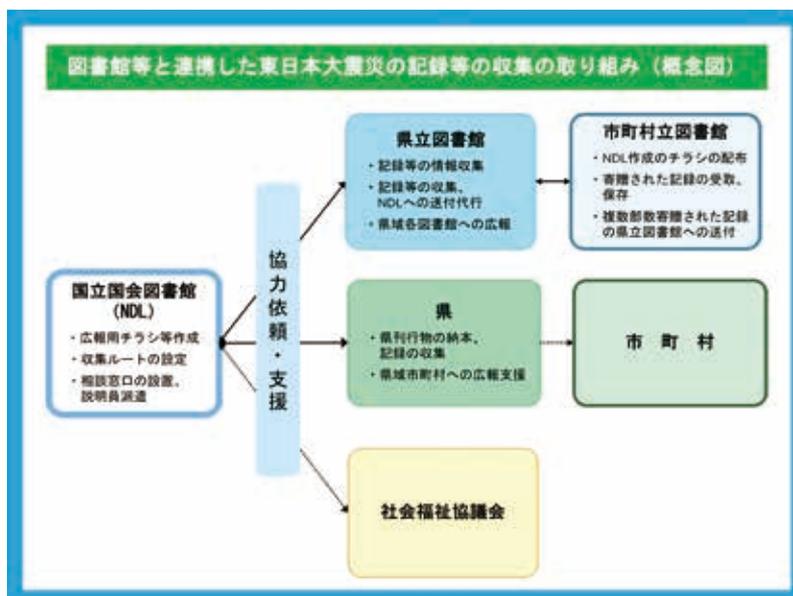
これらの結果について、平成25年6月27日に開催された「国立国会図書館長と都道府県立及び政令指定都市立図書館長との懇談会」で報告し、ご協力をお願いしたところ、被災県である茨城県立図書館、ホームページで大震災の記録収集を呼びかけている山形県立図書館からも、大震災関連資料の書誌データをご提供いただくことができました。

今回、県立図書館がそれぞれの地域の資料を確実に収集し、主題書誌を作成して目録データを公開したり、提供したりしていただくことが、当館

における資料収集の情報源としても非常に有用であることが明らかになりました。

2 図書館協力による大震災の記録の収集

平成24年度第4四半期には大震災の記録の収集に関するアクションプランを策定し、これに沿って青森・岩手・宮城・福島・山形・茨城・千葉の各県立図書館と、各県の東京事務所や県庁および類縁機関等を訪問して、当館の資料収集への協力をお願いしてきました（概念図参照）。



1 システムの愛称の「ひなぎく」は、Hybrid Infrastructure for National Archive of the Great East Japan Earthquake and Innovative Knowledge Utilization の略称であると同時に、花言葉「未来」「希望」「あなたと同じ気持ちです」に、復興支援の趣旨を込めている。 <http://kn.ndl.go.jp/>

2 <http://www.library.tohoku.ac.jp/shinsaikiroku/#gaiyo>

3 岩手県立図書館の「震災関連資料コーナー」書誌データは、平成26年1月10日から「ひなぎく」でも検索できるようにしている。また、福島県立図書館の書誌データについても現在、準備中である（平成26年1月24日現在）。図書館共同キャンペーン「震災記録を図書館に」には、仙台市民図書館も参加しており、同館の「3.11震災文庫」の書誌データも平成25年11月22日から「ひなぎく」でも検索できるようにしている。

震災の記録を図書館に

東日本大震災の「記録」をご寄贈ください

東日本大震災に関する皆様の記憶を風化させないため、「記録」の収集・保存にご協力をお願いします

県立図書館と国立国会図書館では、東日本大震災について皆様の思いを後世に永く伝えていき、今後の防災等に役立てるため、東日本大震災の「記録」など震災に関する資料の収集と保存に取り組んでいます。皆様で作成、発行された「記録」をぜひ図書館にご寄贈ください。東日本大震災の記録・記憶として、永く保存し、皆様がいづつでも利用できるようにしていきます。

「記録」とは？

東日本大震災の体験やその後の生活についての体験記、ボランティア活動に参加した活動日誌、避難所での生活をつづった手記、学校や公民館のお知らせや文集など、東日本大震災に関するものを幅広く対象としています。一般に図書館にある本や雑誌と形態などが全く異なるものでも対象になります。

たとえば、このようなもの「記録」です…

- 震災時の体験やその後の日常生活についてまとめたものを、印刷してごっこ親しい方々にお配りした。
- 震災の後しばらく、地域の公民館で絵本などのお知らせを配布していた。
- 小学校で児童が震災の記憶や地域の思い出をつづった文集を作成し、児童や保護者に配っている。
- 震災について雑誌に寄稿したら、記事の抜粋や複製ももらった。多くの人に活用してもらいたい。

どこに届けばいいの？

まずはお近くの図書館にお持ちくださるか、下記宛にお送りください。

お送りいただく場合は、恐れ入りますが、送料のご負担をお願いします。

- 1冊しかないもの(手元に1冊しか残っていない、1冊しか作っていないなど)は、お近くの図書館または県立図書館で保存します。
- 2冊お持ちいただければ、1冊はお近くの図書館で保存し、1冊は県立図書館で保存し、1冊は県立図書館を通じて国立国会図書館に送られ、国立国会図書館で永く保存いたします。

【お問い合わせ】

- 福島県立図書館 企画管理部 企画協力組
〒990-8003 福島県福島市森合字西栗山1番地 TEL: 024-535-3220(内線 320)
- 国立国会図書館 収集書誌部 収集・書誌課
〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1 TEL: 03-3581-2331(代表)(内線 24502)

福島県立図書館で配布した広報チラシ (表面)

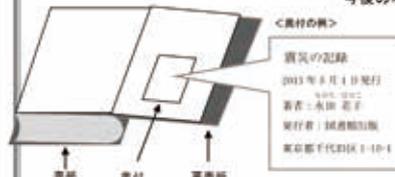
どのように保存、利用されるの？

県立図書館や国立国会図書館では、ご寄贈いただいた「記録」など大震災に関する資料を次のように保存し、利用いたします。

- 東日本大震災の記録・記憶として永く保存して、後世に伝えます。
- 図書館に寄贈された方の閲覧に供します。
- 他の図書館に貸し出します。
- 利用される方の求めに応じて、資料の一部分(著作権法で許される範囲)を複製してその方に提供します。
※ご寄贈いただいた資料の上記のような保存・活用の方針については、図書館にお任せください。お問い合わせは、裏面の問い合わせ先にご連絡ください。

「奥付」をご存じですか

資料に奥付があると、今後の利用や情報の特定のために大変便利です



- 書名: 資料のタイトルを書きます。
- 発行年月日: 資料の発行日や作成日を書きます。
- 著者: 資料の編者や写真の撮影者を書く場合もあります。
- 発行所(社): 資料の発行者や作成者を書きます。所在地も書くとうわりやすいです。

紙媒体ではない「記録」の収集・保存

国立国会図書館東日本大震災アーカイブへのご理解・ご協力をお願いします



NDL東日本大震災アーカイブ

URL: <http://knndl.go.jp/>

国立国会図書館では、デジタルデータの「記録」についても様々な機関と協力して収集・保存に取り組んでいます。これらの「記録」も、国立国会図書館東日本大震災アーカイブ(愛称・ひなざく)で活用できるようにいたします。次のような場合は、下記連絡先までご相談ください。

- 震災時やその後の日常生活の様子を撮影した動画だが、自分ではデータを保管し続けられない。どこかで永く保存し、活用してもらいたい。
- 震災時の日記を永く残したいが、印刷する余力がない。
- スキャンしてPDFにすればよいと勧められたのだが、そうしたものは保存してもらえないだろうか。

【国立国会図書館東日本大震災アーカイブに関する連絡先】

国立国会図書館 電子情報部 電子情報流通課 Email: hinakuthdl@go.jp TEL: 03-3581-2331(代表)



国立国会図書館

(平成25年10月発行) 第1-191号

同チラシ (裏面)

各県立図書館への具体的な協力依頼の内容は次の3点です。

①東日本大震災の記録の収集と保存をお願いする広報への参画

当館の作成する広報チラシ等への助言と、作成したチラシの一般の方々や県内図書館への配布等

②一般市民や民間団体から寄贈される大震災の記録の収集の窓口

県内の市町村立図書館から送付される大震災の記録等の取りまとめや、余部がある場合の当館への送付

③当館と市町村立図書館との協力関係構築への支援

図書館協力の連絡ルート等を通じた県域市町村立図書館への協力の呼びかけと、会議等の機会に当館からの呼びかけの場を作っていたこと

岩手県立図書館、宮城県図書館、福島県立図書館とは、紙媒体資料の収集活動への協力を含む提携文書を取り交わし、すでに広報チラシの作成や配布を始めました。上に掲載したのは、福島県立図書館にご協力いただいた広報チラシ



福島県立図書館「避難を余儀なくされている町村の歴史」の書架



平成24年度に福島県の事業として東日本大震災、原子力災害等の記録収集等を担当した福島県歴史資料館が所蔵する写真パネル

です。大震災の記録は個人の方による自費出版なども多いため、この広報チラシでは、資料の寄贈をお願いするとともに、書誌データ作成に有益な奥付を付けてご提供いただくようお願いしています。

さらに、平成25年5月の宮城県公立図書館等連絡会議、同年7月の岩手県図書館協会・岩手県教育委員会主催「平成25年度図書館等職員研修会」、そして同年10月の福島県図書館研究集會に当館の職員が参加し、各領域の市町村立図書館の方々に東日本大震災に係る記録収集のための協力依頼を行いました。同時に、県の諸機関や類縁機関の方々にも図書館の資料収集活動へのご理解とご協力、情報の提供をお願いしてきました。平成26年度以降は、青森、山形、茨城、千葉の各県にも範囲を広げて連携・協力をお願いする予定で検討

を進めています。

なお、東日本大震災の場合、各地に避難された方が多数いらっしゃることで、また、さまざまな団体や個人によって、全国的な支援活動が行われたことにより、大震災の記録が被災各県に限らず全国で発行されています。これらの記録の収集も今後の課題となっています。

東日本大震災から3年の月日が流れましたが、東日本大震災に関する記憶を着実に残すためにも、引き続き関係資料の収集に努力したいと思います。今後も、出版者の皆さまに資料のご提供についてご協力をお願い申し上げるとともに、これまで当館の大震災の記録の収集にご協力をいただきました多くの図書館の皆さまに、この場を借りて深くお礼申し上げます。

(収集書誌部主任司書 おおつか 大塚 ななえ 奈奈絵)

本の森を歩く

国立国会図書館の巨大な書庫の中から、
毎回一つのテーマにそって蔵書をご紹介します。

第12回 3・11から生まれた本 続

平成23年3月11日の東日本大震災発生から丸3年が経過しました。

本誌では、平成24年3月に、この「本の森を歩く」シリーズ第8回「3・11から生まれた本」として、東日本大震災発生以後に震災について書かれた当館の蔵書の中から、特に岩手県、宮城県、福島県の方々が制作に関わった本をご紹介します。

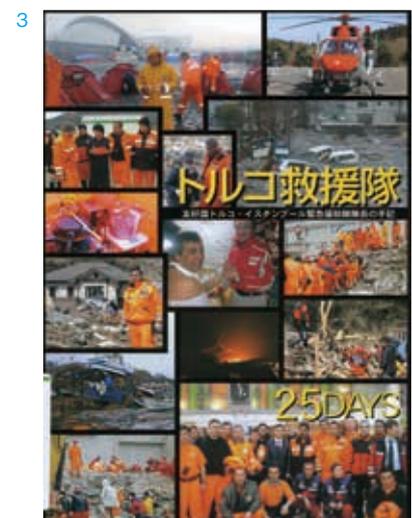
その後、2年を経過し、さらに多くの関連出版物が刊行されています。今回は、特に支援や復興に向けたさまざまな取り組み、震災によって高まった防災意識など、「3.11のその後」から生まれた本を複眼的な視点からご紹介します。

● 支援の輪

『支援日誌 パルシステム東京復興支援プロジェクト』¹は、パルシステム東京の職員が宮城県石巻市で支援活動を行った記録です。支援拠点に置かれ、職員が自由に記入した支援日誌のノートをそのままコピーしたものと、その簡単な解説が載せてあります。始めは炊き出しや瓦礫の撤去から、カキとワカメの養殖の手伝い、そして工場の清掃と、日々少しずつではありますが復興が進

んでゆく様子が伝わってきます。また、ノートの筆跡からも現場の臨場感や支援に携わった人々の思いが伝わってきます。

『アロマテラピーボランティア活動報告 いま、わたしたちにできること』²は、第1部が日本アロマ環境協会の行ったアロマテラピーを通じての復興支援の記録に割かれています。避難所や仮設住宅を訪問してのハンドトリートメントや、うちに精油の香りをつけた「香りのうちわ」の配布

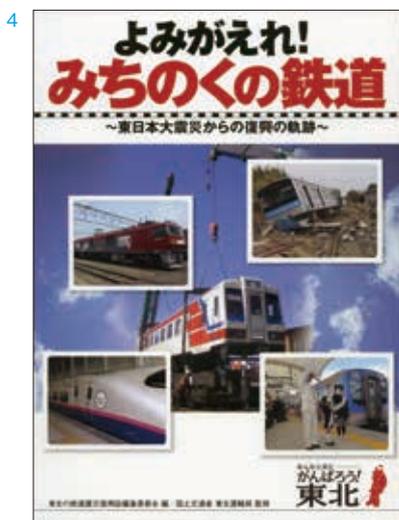


などを通じ、香りによって「ほっとできる時間」を被災者の方々に少しでも持ってもらい、心を和らげてもらおうと活動している様子が描かれています。

支援の手は国内からだけでなく、世界各国からも差し伸べられました。『トルコ救援隊 友好国トルコ・イスタンブール緊急援助隊隊長の手記 25days』³は、震災直後、トルコから派遣された救援隊の一員の手記を翻訳したものです。写真を交えながら日本での救援活動の様子が語られ、その際に得られた教訓が随所で述べられています。

また、「私は、社会を支えるために最も大切なことの一つは、悲しみや喜びを共有できることにあると思っている。日本人はとても大きな苦しみを経験した人たちである。そのため、団結の精神がとても強く、分かち合うことを知っている」と述べ、未曾有の大災害の中でもゴミをきちんと分別し、支援物資を混乱なく受け取る日本人に感心したことが書かれています。

(利用者サービス部人文課 服部 恵久^{はっとり よしひさ})



● 鉄道の復興

『よみがえれ!みちのくの鉄道』⁴は、東日本大震災で被災した鉄道事業者における被災直後の状況や復旧に向けた取り組み、得られた教訓などをまとめたものです。全国からの支援で早期復旧した新幹線、震災5日後に運転再開した三陸鉄道など12社の対応が、写真・図版を交えて記録されています。現場の体験を記したコラムからは、安全確保に尽力するとともに、鉄道の運行再開を復興の象徴ととらえて復旧を目指した鉄道マンの意気を感じられます。記された数々の教訓は、過去の震災の経験と同様、次なる災害への備えとなることでしょう。震災直後、約4,070kmあった鉄道運休区間の総延長は、平成24年3月末時点で約304km、平成26年2月時点では約271kmとなりました^{注1}。

注1 東北地方の鉄道復旧状況について。
国土交通省東北運輸局ホームページ
<http://www.tb.mlit.go.jp/tohoku/saigai/rosenzu260201.pdf>
(last access 2014.3.12)

*以下の書誌事項中に記載のある価格はすべて税別。

- 1 『支援日誌 パルシステム東京復興支援プロジェクト』生活協同組合パルシステム東京 [2012] 80p
<請求記号 EG77-L8>
※ 入手に関する問合せ先 生活協同組合パルシステム東京新宿本部広報室 palsystem-tokyo@pal.or.jp
- 2 『アロマテラピーボランティア活動報告 いま、わたしたちにできること』日本アロマ環境協会 [2012] 27p <請求記号 Y93-L477>
※ 日本アロマ環境協会ホームページで全文PDFを公開しています。
http://www.aromakankyo.or.jp/article/koho/1696/80_1696_1_4_121030034335.pdf
- 3 『トルコ救援隊 友好国トルコ・イスタンブール緊急援助隊隊長の手記 25 days』[イブラヒム・ベルベル] [著] [在イスタンブール日本国総領事館] [編纂] [石巻市] [201-] 57p
<請求記号 EG77-J995>
- 4 『よみがえれ!みちのくの鉄道 東日本大震災からの復興の軌跡』東北の鉄道震災復興誌編集委員会 編・刊 2012.9 231p
<請求記号 DK53-J590>
※ 非売品。国土交通省東北運輸局ホームページで全文PDFを公開しています。
<http://www.tb.mlit.go.jp/tohoku/td/td-sub100.htm>

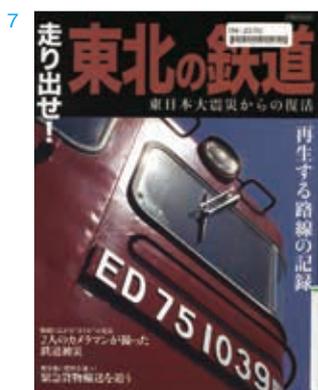
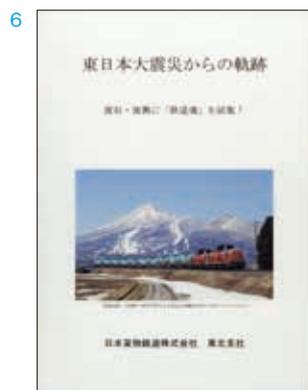
『東日本大震災「復興」時刻表』⁵は、平成23年12月末までの間に著者が収集した臨時ダイヤの情報をもとに、震災前の時刻表と比較して列車ごとの運行状況を示したものです。震災発生から1か月間ほどは、1日から数日ごとに運行ダイヤが変更されている路線もあり、日ごとに復旧が進んだ様子がわかります。一方、地震や津波の直接的な被害を受けなかった内陸部でも、燃料不足のために震災1週間後頃から運休を余儀なくされた鉄道がありました。

燃料不足解消のため、鉄道の輸送力を生かして運行されたのが、緊急石油輸送列車です。東北本線不通のため、日本海側を迂回して新潟経由で郡山へ、秋田・青森経由で盛岡へと石油が運ばれました。通常と異なるルートを長大貨物列車が通るためには、機関車・貨車や運転士の確保とともに、

線路や橋梁に重い貨物列車が入線できるかどうかの確認も必要ですが、多数の関係事業者の協力により、迅速に確認・線路復旧が進められ、短期間での運行にこぎつけました。『東日本大震災からの軌跡』⁶には、その記録をはじめ、被害・復旧状況、対応に当たった関係者の生々しい証言などが記されています。

『走り出せ！東北の鉄道』⁷は、震災直後の鉄道の状況や復旧の様子を豊富な写真で紹介しています。石巻駅の復旧を時系列の写真で紹介した部分では、信号の代わりに通票と呼ばれる一種の通行手形を授受して運行を管理する様子など、珍しい光景も見られます。復旧までの地域の足を担う列車代行バスの実情と課題にも触れていますが、まちづくりと一体となった鉄道の復興に向けた検討は、今も進められている最中です^{注2}。

(収集書誌部収集・書誌調整課 澤井 優子^{さわい ゆうこ})



● 震災に備える

「3.11」は東北地方の春先に起こったこともあり、普段の温かい食事がありがたかったという声がよく聞かれました。『必ず役立つ震災食』⁸は被災者を支援した石川県栄養士会のメンバーが記した本です。ポリ袋といった震災時でも利用できるもので、加熱されたいつもの食事を簡単に調理する方法が書かれています。殺菌や栄養についてフォローしている点は、栄養士が監修した本ならではのです。普段の食事としても美味しそうなので、訓練をかねて作ってみたくになります。

注2 震災発生後2年目までの状況は、『東日本大震災後の東北運輸局活動記録 復興への歩み 続編』（国土交通省東北運輸局 2013 <請求記号AZ-471-L4>）にも記録されています。

東日本大震災後に「絆」が叫ばれたように、大災害時には自分のことだけを考えていけばよいわけではありません。『子連れ防災手帖』⁹は「3.11」で被災した親の観点からまとめられた本です。読み手に母親を想定しているため、かわいらしいイラスト、非常に読みやすいレイアウトで、コンパクトサイズにおさめられています。実体験に基づくアドバイスが多く、子どもがいなくても参考になります。読み進めるのが辛くなるような体験談や悩みも多く、防災に対する意識もおのずと高まります。

職場で震災にあうこともあります。例えば、『災害—その時学校は』¹⁰や『3.11を忘れない! 東日本大震災の教訓を生かす 災害発生時の介護事業者必携マニュアル』¹¹は教師や介護事業者の観点から防災について記した本です。仕事先での防災対策には、

施設設備や法律、防災教育、地域との連携等、個人の活動とは異なる条件を考える必要があります。これらの本では、どこから着手すればよいのか、Q & A形式でポイントが分かるようになっています。

防災全体を考える本として『日本列島ハザードマップ』¹²があります。「3.11」を機に2012年9月から2013年3月まで朝日新聞が掲載した「災害大国 迫る危機」という特集をまとめたものです。活断層、地盤、斜面災害、火災、インフラ、津波というポイントから全国地域別に危険性をまとめてあります。地図や写真が多用されており、新聞社ならではの情報量です。自分の住んでいる地域の災害傾向、危険度を知ることで、どのような対策を講じたらよいのかを考える一助となるのではないのでしょうか。

(総務部人事課 ^{まつなが} 松永 しのぶ)

- 5 『東日本大震災「復興」時刻表 臨時ダイヤで検証する東北53被災路線の全貌 保存版』
越前勤 著 講談社エディトリアル 編集 講談社 2012.3 175p
ISBN978-4-06-217570-8 2500円 <請求記号DK111-J26>
※本書刊行後の復旧状況については、インターネット(震災復興時刻表 <http://sinsai-timetable.at.webry.info/>)で提供されています。
- 6 『東日本大震災からの軌跡 復旧・復興に「鉄道魂」を結集!』
日本貨物鉄道東北支社 企画・編集・刊 2012.7 104p 付DVD-ROM1枚 <請求記号 YU9-J790> ※現在、入手不能。
- 7 『走り出せ!東北の鉄道 東日本大震災からの復活』
イカロス出版 2012.4 135p ISBN978-4-86320-564-2
1619円 <請求記号 Y94-J25753>
- 8 『必ず役立つ震災食 最小限の水で作る超カンタン!!栄養満点レシピ 便利なポリ袋調理法 時間がない時、一人暮らし、アウトドアでも力を発揮』
石川県栄養士会 編 北國新聞社 2012.12 87p ISBN978-4-8330-1914-9 1000円 <請求記号 EG77-L45>
- 9 『子連れ防災手帖 被災ママ812人が作った』
つながる.com 編 メディアファクトリー 2012.3 143p
ISBN978-4-8401-4511-4 1000円
<請求記号 Y71-J1402>
- 10 『災害-その時学校は 事例から学ぶこれからの学校防災』
日本安全教育学会 編 ぎょうせい 2013.1 177p ISBN978-4-324-09588-1 2571円 <請求記号 FC1-L6>
- 11 『3.11を忘れない!東日本大震災の教訓を生かす 災害発生時の介護事業者必携マニュアル』
「民間事業者の質を高める」全国介護事業者協議会 2013.3 106p <請求記号 EG51-L100>
※入手に関する問合せ先 「民間事業者の質を高める」全国介護事業者協議会 03-5289-4381
- 12 『日本列島ハザードマップ 災害大国・迫る危機』
朝日新聞社 著 朝日新聞出版 2013.3 119p ISBN978-4-02-251060-0 1600円 <請求記号 EG77-L153>



● 文化財を活かすために護る

『動産文化財救出マニュアル』¹³は、災害にあった文化財等を、被災現場から安全な場所へ救出する際の作業マニュアルです。絵画や書籍、写真、工芸品、民俗資料から生活用具まで、資料ごとに被災時の取扱い方、一時保管上の注意点および救出後の本格修理・修復の基礎知識がわかるようになっています。

『茨城の近代建築』¹⁴は、茨城県内の歴史建造物を訪ね、建物の歴史と震災による被害状況を報告した資料です。茨城県は震災による文化財への被害が全国で最も多く発生しました。耐震工事により同じ市内でも比較的被害が少なかった建造物があったことや、被災した建造物が地域の歴史遺産として再評価される様子を紹介しています。

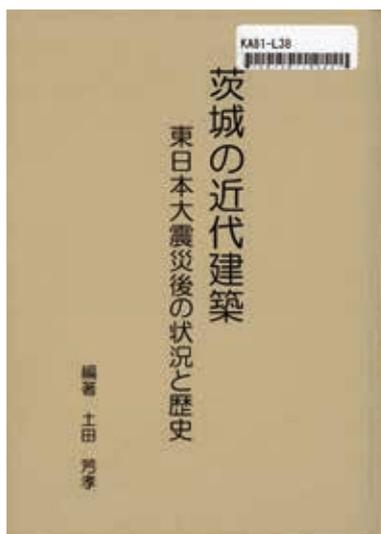
『記憶・記録を伝承する』¹⁵は、民俗芸能や民

俗技術といった無形文化財の保護への寄与を目的に開催されている研究協議会の報告書です。2012年の協議会は、震災により伝承の母体や場が失われ、存続が危ぶまれる無形の文化遺産を後世へ伝えるために、これらをどのように記録して、その記録をどのように伝えるかをテーマに行われました。様々な立場における記録化の取り組みを取り上げ、今後の課題と記録の果たす役割を討論しました。報告は同協議会を主催する東京文化財研究所のホームページでも公開しています。

『記憶をつなぐ』¹⁶は、「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会」の活動を中心に、有形・無形の文化遺産の救済活動を振り返り、非常時における研究者や専門家の役割を検討したものです。今後に向けて、救済された文化遺産から失われた記憶の再生と継承のあり方を問うものになっ



13 『動産文化財救出マニュアル 思い出の品から美術工芸品まで』
動産文化財救出マニュアル編集委員会 編
クパプロ 2012.7 258p ISBN978-4-87805-124-1 2800円
<請求記号 EG77-J1195>



14 『茨城の近代建築 東日本大震災後の状況と歴史』
土田芳孝 編著 筑波書林 2013.8 154p
ISBN978-4-86004-101-4 1714円
<請求記号 KA81-L38>
※残部僅少



15 『記憶・記録を伝承する 災害と無形の民俗文化』
(無形民俗文化財研究協議会報告書 第7回)
国立文化財機構東京文化財研究所無形文化遺産部 編・刊 2013.3 109p <請求記号 K275-L58>
※ http://www.tobunken.go.jp/~geino/pdf/kyogikai_report/07mukeikyogikai_report.pdf

ています。

『福島の美術館で何が起こっていたのか』¹⁷は、2012年夏、福島県立美術館で開催されたベン・シャーン展を契機に作られました。同展は震災後の海外からの資料貸出しを巡り、新聞等でも話題になりました。学芸員および展示会関係者との対話を通して、美術館が文化財の保管・展示施設としてだけでなく、人々の交流・対話の場、あるいは地域の住民を勇気づける場ともなりうる可能性を示唆しています。

(利用者サービス部音楽映像資料課 村本 聡子)

● アートの力

『3.11 キラクのキロク 市民が撮った3.11大震災記憶の記録』¹⁸は、被災地の市民から寄せられた写真を集めたものです。震災の中での生活を写した1,500点の写真が、撮影された地区ごとに時系列順に並べられています。市民の視点で撮られた写真からは、報道では伝えきれない、現地で生活する人々の地道な足取りが感じられます。掲載写真に写っている地点を定点観測する活動は本書の刊行後も続けられ、平成24年3月には『3.11 キラクのキロク、そしてイマ。』¹⁹として刊行されました。

16

『記憶をつなぐ 津波災害と文化遺産』

日高真吾 編 千里文化財団
2012.9 186p ISBN978-4-915606-66-3 1500円

<請求記号 K275-J411>

※ オンラインミュージアムショップで入手可能

<https://www.senri-f.or.jp/FS-Shop/www/item/199-168337.html>



17

『福島の美術館で何が起こっていたのか 震災、原発事故、ベン・シャーンのこと』
黒川創 編集グループSURE 2012.11
199p 2300円 <請求記号 K3-L44>

※ 入手方法案内

<http://www.groupsure.net/purchase.php>



18

『3.11 キラクのキロク 市民が撮った3.11大震災記憶の記録』
20世紀アーカイブ仙台 企画・編集・刊 2012.3 325p ISBN
978-4-9905064-1-4 2000円 <請求記号 EG77-J762>

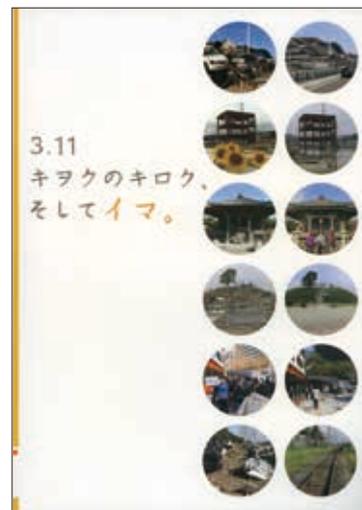
19

『3.11 キラクのキロク、そしてイマ。』
20世紀アーカイブ仙台 企画・編集・刊
2013.3 181p ISBN978-4-9905064-2-1
2000円 <請求記号 EG77-L127>

※ これらの写真は、『3.11』市民が撮った震災記録』として、インターネットで公開されています。

<http://www.sendai-city.org/311.htm/>

18、19とも仙台市内主要書店で入手可能。



『東日本大震災記録集 岩手県』²⁰『東日本大震災記録集 宮城県』²¹『東日本大震災記録集 福島県』²²は、被災地域に住む日本グラフィックデザイナー協会の会員が編集・制作した会報です。被災状況のデータが視覚的に表現され、文字や数字を羅列するよりもわかりやすく、印象に残る構成になっています。各巻には震災の経験を今後に生かすための独創的なアイデアや、震災についてのメッセージを伝える作品が掲載されています。

『生きる 東日本大震災から一年』²³は、日本写真家協会が編集した写真集です。第一部「被災」では津波が町に迫り、押し流していく生々しい瞬間が切り取られています。「ふるさと」と題する第二部には、被災地のかつての活気にあふれた姿があります。第三部「生きる」では、震災の爪痕が残る中、悲痛な記憶を忘れるのではなく、その上に足を踏みしめてたくましく生きている人々を写真家の眼でとらえています。

『ふくしまの子どもたちが描くあのとき、きょう、みらい。』²⁴は、相馬市の子どもたちが、空想上の未来の町や公園、ふるさとの海などを題材として描いた絵の画集です。津波の絵も多く収録されていますが、明るく色鮮やかな表現に驚かされます。被災した子どもたちの胸の内を安易に憶測することはできません。ただ、描かれた絵の力強さにはっとさせられます。

『つくるのが生きること 3.11 東日本大震災復興支援プロジェクト』²⁵は、復興支援のための文化的、社会的なプロジェクトの活動を記録した資料です。地域文化の継承に取り組む事業や、被

災者と支援者をつなげる多くの試みが紹介されています。震災直後には無力感に苛まれた人も、「つくる」ことによって気持ちを立て直すことができましたといいます。また、支援プロジェクトには、みんなと一緒に何かを作り上げるという企画が少ないことに気付きます。創造することは、根源的などころで人に力を与えてくれるのかもしれない。

(利用者サービス部科学技術・経済課 ^{すずき}鈴木 ^{まお}麻央)

● 復興への歩み

—まちづくり、むらづくり

昨今、多くの地方で少子高齢化・過疎化などの課題を抱えた地域コミュニティの再生や活性化のため、行政・専門家・住民の協働による「まちづくり」の取り組みが行われています。東日本大震災は、多くの地域コミュニティを破壊し、甚大なダメージを与えました。緊急対応、復旧の段階を経て復興に向けた本格的な取り組みが求められる今、「まちづくり」は被災地において一層大きな意味を持っていることが資料から伺われます。

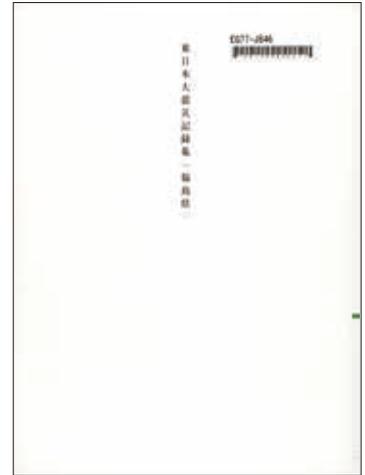
『みやぎボイス』²⁶は、日本建築家協会東北支部が2013年4月に実施したシンポジウムの記録集です。シンポジウムは、石巻市北上町で復興活動に関わる人々による意見交換から復興の全体像を把握することを趣旨とした「Stage1」、復興に関わる市民、事業者、行政、専門家らの議論によって人々の横のつながりを作り、協働する仕組みづくりを考えることを趣旨とした「Stage2」の2部構成で行われました。また、多くの意見を集めるためにグループディスカッションも行われ、復興



20
『東日本大震災記録集 岩手県』(JAGDA report vol. 189)
日本グラフィックデザイナー協会 2012.3
96p <請求記号 EG77-J844 >
※20～22に関する問合せ先 日本グラフィックデザイナー協会 03-5770-7509



21
『東日本大震災記録集 宮城県』(JAGDA report vol. 189)
日本グラフィックデザイナー協会 2012.3
84p <請求記号 EG77-J845 >



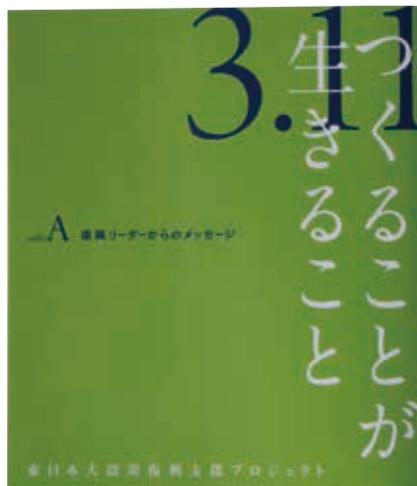
22
『東日本大震災記録集 福島県』(JAGDA report vol. 189)
日本グラフィックデザイナー協会 2012.3
87p <請求記号 EG77-J846 >



23
『生きる 東日本大震災から一年』
日本写真家協会 編 伊集院静 解説
新潮社 2012.2 191p ISBN978-4-10-300552-0 2800円
<請求記号 EG77-J804 >



24
『ふくしまの子どもたちが描くあのと、きょう、みらい。』
蟹江杏, 佐藤史生 編 徳間書店
2011.10 141p
ISBN978-4-19-863281-6 1300円
<請求記号 EG77-J647 >



25 (標題紙)
『つくること、生きること 3.11 東日本大震災復興支援プロジェクト』
中村政人 [編] 非営利芸術活動団体コマンドN
2012.10 208, 160p
ISBN978-4-9906596-0-8 2200円
<請求記号 EG77-J1153 >
※オンライン書店等で入手可能



26
『みやぎボイス = Miyagi voice 震災復興シンポジウム 2013 地域とずっといっしょに考える復興まちづくり』
日本建築家協会東北支部 2013.6
140p 800円
<請求記号 DD83-L33 >
※問合せ先 日本建築家協会東北支部 022-225-1120

に向けた真摯な議論があったことが記録されています。

『復興まちづくりの知恵袋』²⁷は、アーバンデザイン研究体（UDM）が岩手県大船渡市三陸町おきらいとまり越喜来泊地区で「泊区復興まちづくり委員会」を立ち上げ、住民とともに進めてきた復興支援プロジェクトから生まれました。地域の魅力・資産・価値を改めて発見し、確認する「知ろう」、地域の資産・価値の質と魅力を高める「つくろう」、持続的な復興まちづくりの礎を築く「つなごう」の3つを柱として、復興のロードマップ（計画）を提案しています。2012年度、UDMは、委員会から個性と統一感のある街づくりを依頼され、高台移転計画を支援しました。泊の暮らしと生活にこだわりながら進めた計画の内容とプロセスを記録したのが、『復興まちづくりの知恵袋 高台移転整備計画編』²⁸です。巻末には、この提案が行

政に尊重されなかったことが記され、多様な主体が関わる復興計画の進捗の困難さが伺われますが、それでもなお、住民と行政の協力による魅力的な復興まちづくりに期待を寄せています。

福島県は、震災と津波のみならず原子力発電所事故による被害も甚大です。『HOPE』と名付けられたシリーズは、地元ゆかりのクリエイターが制作し、サーファー有志で構成される市民団体「いわき市海岸保全を考える会」が刊行しています。『HOPE』²⁹は、震災前の美しいいわきの海岸の写真と、震災や原発事故発生後の写真を集めて平成23年5月に刊行されました。『HOPE 2』³⁰は、震災・事故から半年強が経過した10月に刊行された、いわき市民、原発事故による被害を受けた人々、ボランティアなど、さまざまな立場の130人の声を集めた証言集です。『HOPE 3』³¹は、復興飲食店街や移転先で懸命に営業を続ける商店や飲食店を中心に紹介した、県外向けの案内です。この本の序文には、いわき市民と避難者との間に軋轢があることが率直に記されていますが、魅力ある人や地域の情報を発信することを通じて、そういった問題をも乗り越えて、いわきにおける新たな人のつながりやコミュニティの形成に取り組もうとする強い意志が伝わります。

飯舘村は、福島県北部の豊かな自然に恵まれた美しい村です。村では、飯舘流スローライフを「までいライフ」と名付け、村の文化や風土に根差しつつ、村民自身で様々な村づくりの取り組みを実践してきました。「までい」は「真手」という古語が語源の、左右揃った両手を意味する言葉で、東北地方では「手間ひま惜しまず」「丁寧」に心を



27 『復興まちづくりの知恵袋 U.D. movement 2012』アーバンデザイン研究体復興まちづくりの知恵袋編集委員 編 アーバンデザイン研究体 2012.3 62p <請求記号 DD83-L38>

※ ホームページから全文PDFをダウンロード可。

27 http://www.udmovement.com/pdf05_book_free/UDM_Booklet_2012s.pdf

28 http://www.udmovement.com/pdf05_book_free/UDM_Booklet_2013s.pdf

28 『復興まちづくりの知恵袋 U.D. movement 2013 高台移転整備計画編』アーバンデザイン研究体泊プロジェクトメンバー 編 アーバンデザイン研究体 2013.3 14p <請求記号 Y93-L1135>

こめて」「つつましく」といった意味で使うそうです。

飯館の村づくり活動の記録である『までの力』³²には、美しい村の風景や笑顔の村民の写真、村への愛情に満ちたコメントが紹介されています。この本は震災や原発事故の前から制作が進められていましたが、刊行は2011年11月になりました。その後、2012年8月には『までの力続』³³が刊行されました。この続編では、震災発生直後や全村避難の際の生々しい様子とともに、避難後にも続けられた村の活動や、村民の率直な声と復興への強く深い願いを伝えています。

いずれの本も、地域を思う人々のつながりこそが、まちづくり、村づくり、復興を進めていく原動力になるのだというメッセージを、読む人に強く訴えかけてきます。

(総務部総務課 中島 尚子)

国立国会図書館では、東日本大震災アーカイブ事業のコンテンツを充実させることを目的として、被災各県の図書館等との連携・協力のもとに、東日本大震災関連資料を収集しています（本誌p4～7参照）。被災された方々や全国の支援者の方々の記憶・記録が時間の経過とともに失われつつある今、今後の防災、減災に生かすために、これらの貴重な記録を収集し、保存することはますます重要になってきています。当館の大震災関連資料収集に対する皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。



29
『Hope 浜通り元通り! がんばっぺ いわき3.11からの復興』
いわき市海岸保全を考える会 2011.5
35p ISBN978-4-904724-00-2
476円 <請求記号 EG77-L465>
※在庫なし



30
『Hope 浜通り元通り! 2 (東日本震災いわき130人の証言)』
いわき市海岸保全を考える会 2011.10
119p ISBN978-4-904724-03-3
933円 <請求記号 EG77-L466>
※在庫僅少



31
『Hope 浜通り元通り! 3 (いわきのたまご)』
いわき市海岸保全を考える会 2013.3 66p
ISBN978-4-904724-07-1 476円
<請求記号 EG77-L467>
※30、31の入手に関する問い合わせ先
ウェブビジョン 電話・FAX 0246-39-4440



32
『までの力 第5版』
『までい』特別編成チーム 企画編集
Saga Design Seeds 2011.11 119p
ISBN978-4-904418-09-3 2381円
<請求記号 DD37-J40>
※32、33は、オンライン書店、福島市内岩瀬書店、西沢書店、椋久里、松川仮設の直売所「なごみ」などで販売しています。



33
『までの力 続』
『までい』特別編成チーム 企画編集
Saga Design Seeds 2012.8 119p
ISBN978-4-904418-15-4 2381円
<請求記号 DD37-L1>

本屋に ない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。ここでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会平成23年度活動報告書

東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会 [編]
東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会事務局
2012.10 313p 30cm <請求記号 K275-J416>

東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会平成24年度活動報告書

東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会 [編]
東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会事務局
2013.5 208p 30cm <請求記号 K275-L54>

語ろう!文化財レスキュー 被災文化財等救援委員会公開討論会報告書

東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会事務局
2013.6 359p 30cm <請求記号 K275-L59>

東日本大震災とそれに伴う津波、原発事故により、地域の文化財もまた数多く被災した。地震による転倒・落下で破損したもの、津波で流失したもの、泥まみれになったもの、海水に濡れて変形・腐敗したもの、カビが発生したもの、放射能により汚染されたものなど、被災の様子は実に様々であった。これらの動産文化財を被災現場から救い出すために文化庁が全国に呼びかけ、文化財・美術関係団体等で救援委員会を組織して実施したのが、「文化財レスキュー」(東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業)である。その活動については、マスコミの報道でご覧になった方も多いと思う。

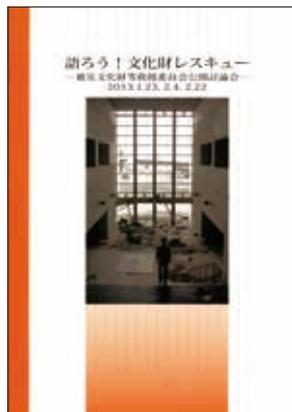
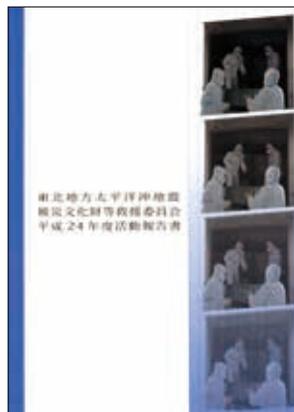
この救援事業で対象となった文化財「等」とは、国や自治体が文化財として指定した貴重な美術工芸品だけでなく、標本等の自然史資料や、図書、公文書、歴史文書、民具等も含む広範囲な文化財を指

す。地震や津波に襲われた施設から文化財等を救出し、海水に濡れ泥まみれになった資料を洗浄し乾燥するなどの応急処置を施し、所有者の元に戻すまでの間、安定した場所で一時保管する、というのがレスキューの内容である。レスキューを行った施設は、岩手・宮城・福島・茨城4県の公立・私立の博物館・美術館・資料館・その他の施設、寺社、個人宅など90か所を超え、全国から学芸員、保存修復技術者、行政関係者、ボランティア等が駆けつけた。

ここで紹介する3冊は、このレスキューの記録である。平成23年4月から1年間の予定で始められたレスキューの初年度の記録をとりまとめたのが『東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会平成23年度活動報告書』、その後平成24年度末まで延長されたレスキューの2年目の記録をまとめたのが『同平成24年度活動報告書』、そして、2か年にわたる活動の成果と課題を総括するために行われた討論会の記録が『語ろう!文化財レスキュー 被災文化財等救援委員会公開討論会報告書』である。

平成23年度および平成24年度の報告書では、文化庁の呼びかけに応じてレスキューに参加した政府機関、文化財関係団体、NPO等、そして、被災4県の教育委員会、市町村、関係施設・団体が、それぞれの視点から、自らが行ったレスキューの内容や問題点等を、写真も交えて丁寧な報告している。

その中で、レスキューの意義を象徴的に表すエピソードが、平成23年度報告書に記されている。陸前高田市立博物館の熊谷賢氏は、レスキュー時に市民から「そんな物を探すよりも、人を探せ」という一言をかけられ、文化財を残すことへの信念が揺らいだという。しかし、文化財には地域の記憶、物語が



内在しており、「すべてを失った人々が写真や形見となるものを探し求めて瓦礫の中を歩いていたように、今、我々が瓦礫の中から資料を救出し、それを後世に残さなければ、陸前高田という町そのもののアイデンティティーが失われてしまう」という思いで作業を続けたそうである。地域の復興に、文化財等の保護・活用が重要であることを物語るエピソードである。

国立国会図書館も救援委員会の一員として、文書等の保護の領域において活動し、岩手県立博物館が救出した古文書の安定化処理作業の支援などを行ったことを平成23年度と平成24年度で報告している。

今回のレスキューでは、文化庁が所管の壁を越えて救出すべき文化財の範囲を広くとらえ、全国の専門家、ボランティア等の協力を得る体制をつくったことで、多くの文化財を救うことができた。これは大きな成果である。一方で、課題も顕在化しており、これらを総括したのが『公開討論会報告書』である。

レスキューを実施する中で、事前の備えの有無が、被災時の救援作業の効率を左右することが、改めて確認されている。例えば、宮城県では、東日本大震災以前から県と歴史研究者等で構成されるNPO法人「宮城歴史資料保全ネットワーク」が協働して文

化財の所在確認、リスト化を実施しており、所有者との意思疎通も行われていた。これが救援作業に寄与したという。

今後の備えとして、報告書は、多岐にわたる課題を提示している。体制面では、様々な文化財

分野の専門家が協働したことで形作られた、分野を超えた人のつながりを発展させ、各文化財分野の業界的な組織・団体のネットワークを形成していくこと、そして文化財レスキューのための平時の恒久的な体制や、縦割りを排した総合的な文化財行政の必要性を指摘している。また、人材面では、被災文化財救援のための専門家の育成、技術面では、今回新たな技術を適用した資料の長期的なモニタリングや、活動記録を蓄積し次に活かすことの必要性を指摘している。なお、被災文化財の救援は、文化財レスキューのほかにも官民様々な主体により実施された。民間企業の力を十分に活用できるような官民連携のあり方についても、検討の余地があるのではない。

文化財レスキューは終了したが、一時保管している文化財を本格的に修復し地域に戻す作業は今も続いている。また、福島県では、なお救援を要する文化財が多く残っているため、平成25年度も救援活動を継続し、「福島県内被災文化財等救援事業」が平成25年7月から平成26年3月までの予定で行われた。被災地の生活のみならず、文化の復興に向けて、今後も息の長い取り組みが行われることとなる。

(電子情報部電子情報サービス課長 ^{たけうち ひでき} 竹内 秀樹)

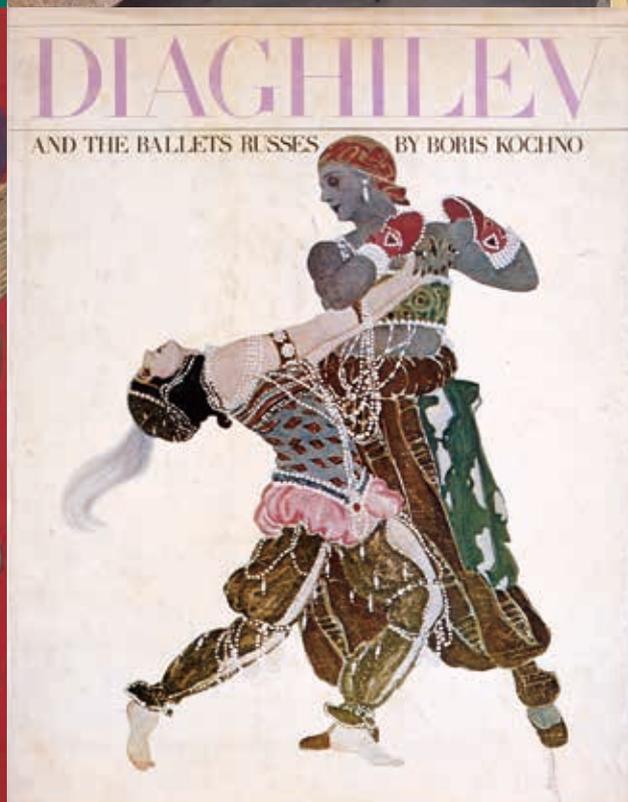
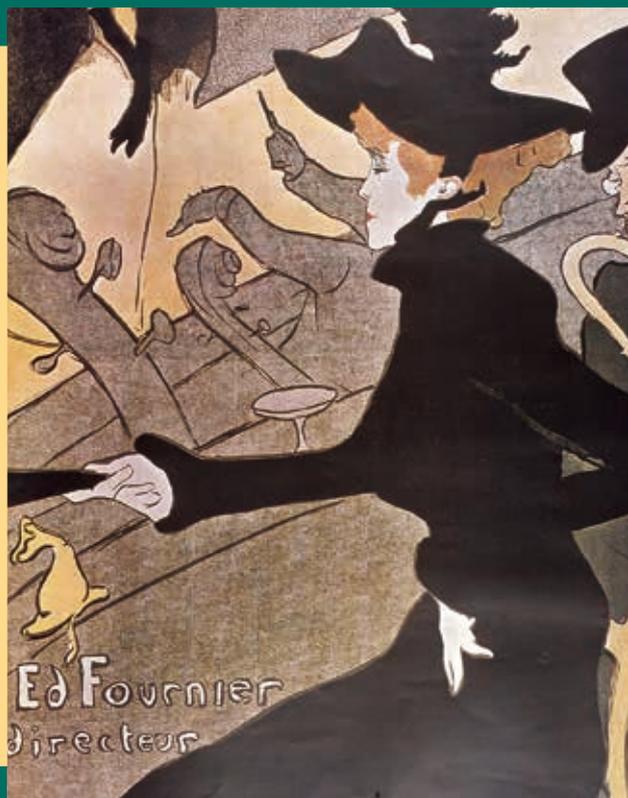
※東京文化財研究所ホームページで全文を公開中。
<http://www.tobunken.go.jp/japanese/rescue/report/index.html>

ようこそ、
心躍るひとときへ

— 蘆原英了

コレクションの世界—

3. サーカス



蘆原英了コレクション—それは国立国会図書館が誇るバレエやシャンソン、演劇、サーカス等に関する資料を集めた世界有数のコレクションです。蘆原コレクションの世界を紹介する3回シリーズの最終回はサーカス関係資料です。洋図書のほか、プログラムやポスターなども集め、サーカスへ足を運び細かく観察した、蘆原のサーカスへの愛がうかがわれる資料をご紹介します。ようこそ、心躍るひとときへ—

■サーカスに光を

バレエやシャンソンの紹介者として名高い蘆原は、サーカスをこよなく愛するサーカス研究家でもありました。

蘆原の没後、昭和57（1982）年に、幅広い芸術の分野で地道に努力を続けている者に贈られる蘆原英了賞が創設されます^{注1}。暗いイメージがあった日本のサーカスを、外国のように一家で楽しむ、歌舞伎などと同等の大衆芸能に育てたいという蘆原の遺志をうけ、第1回目はサーカス芸人のウォーリー・白井^{注2}らに贈られました。

サーカスに関する研究書を出したいという蘆原の願いはかないませんでした。いろいろな雑誌に書かれたエッセイや講演録が、『サーカス研究』（下図左）にまとめられています。

■サーカスの生命は馬

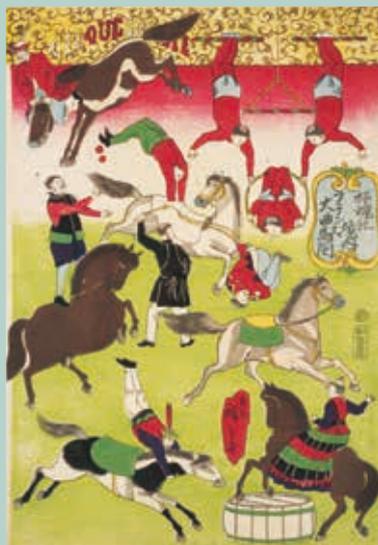
幼少のころから馬に親しんでいた蘆原は、8歳の時に東京に移り、靖国神社の招魂祭で見た曲馬（サーカス）に夢中になります。

——曲馬団が私を昂奮させるのは、まず馬の臭いである。これは馬自身の臭いと糞の臭いである。私は馬糞の臭いをかぐと、何ともいえぬ気持ちになる。つまり曲馬団にとつがりつかった気持ちになる。^{注3}

近代サーカスは、1770年にイギリスの退役軍人フィリップ・アストレー（Philip Astley 1742-1814）が乗馬学校に円形劇場を作り、曲馬に綱渡りなどの他の曲芸を加えて興行を始めたのが起源とされています。おもな交通手段が馬や馬車であり、軍隊には馬術に長けた騎兵隊があった当時、



『サーカス研究』 蘆原英了 著
田村義也 装丁 新宿書房 1984
〈請求記号 KD851-13〉
*人文総合情報室で開架しています。



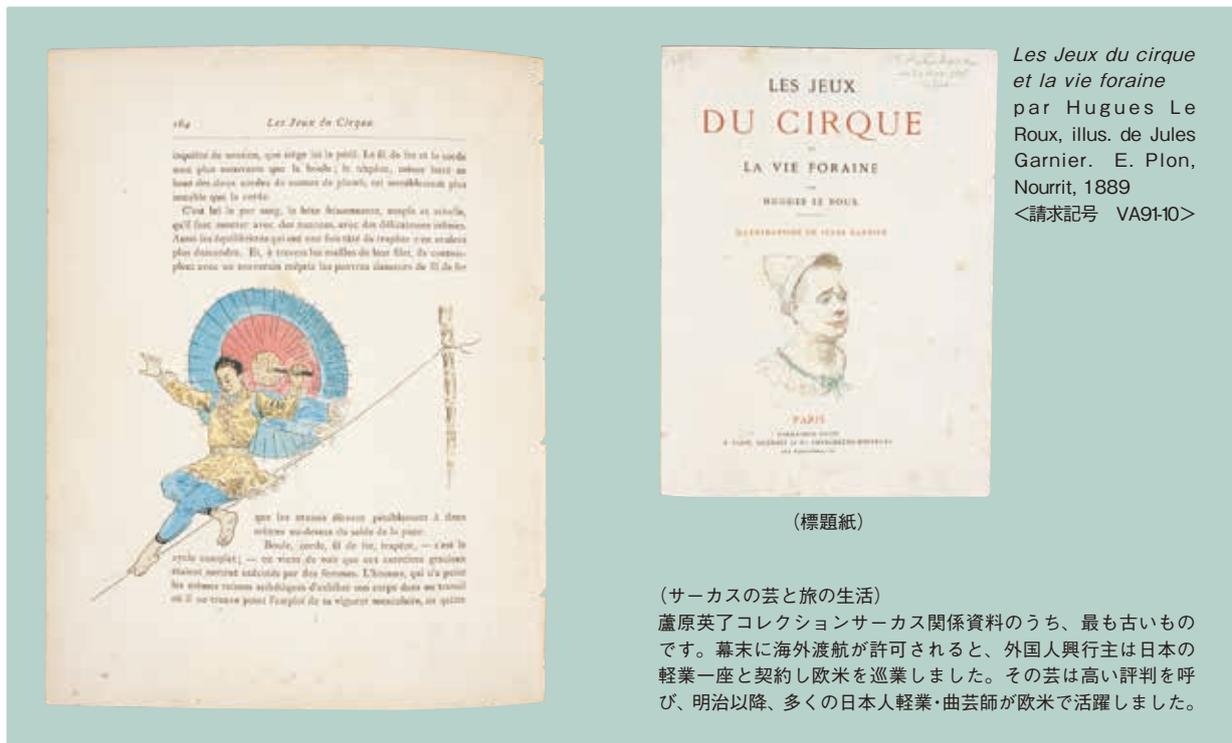
「招魂社境内フランス大曲馬団」
広重 政田屋 [1871]
〈請求記号 VA301-4〉
国立国会図書館デジタルコレクション
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1307428> (インターネット公開)

明治4（1871）年に来日した、スリエが率いるフランス曲馬団。蘆原英了コレクションには、幕末明治期に来日した西洋曲馬団を描いた錦絵が約30点あります。

注1 「大衆芸能に光を 英了さんの遺志つぎ「蘆原賞」 夫人が香典基金に」『読売新聞』1982年3月6日 夕刊 11面。

注2 本名・白井武男（1925-）。日本やアメリカのサーカスで60年以上にわたって活躍。斜めに張ったワイヤー上で芸をする「逆網（坂網）」や、椅子を高く積み上げた上で倒立する「七丁椅子」を持ち芸としました。

注3 蘆原英了 『私の半自叙伝』 新宿書房 1983 〈請求記号 GK38-37〉 p.75



Les Jeux du cirque et la vie foraine par Hugues Le Roux, illus. de Jules Garnier. E. Plon, Nourrit, 1889 <請求記号 VA91-10>

(標題紙)

(サーカスの芸と旅の生活)
 蘆原英了コレクションサーカス関係資料のうち、最も古いものです。幕末に海外渡航が許可されると、外国人興行主は日本の軽業一座と契約し欧米を巡業しました。その芸は高い評判を呼び、明治以降、多くの日本人軽業・曲芸師が欧米で活躍しました。

身近な存在である馬を使って芸をするのは自然な流れであったのでしょう。馬術はサーカスの源流であり、日本でも長らくサーカスの中心は馬の芸でした。ひとくちに馬の芸といっても、種類は多種多様で、複雑な歩調やダンスを見せる高等馬術、馬の上でアクロバットなどの芸をする曲乗り、調教した馬に芸をさせる見世物などがあります。蘆原はとくに、並走する馬の上に人間がピラミッド型に乗る芸が好きだったようです。

やがて、交通機関の発達によって生活の場面から馬が消え、空中芸や猛獣芸などが新たに出現してサーカスの演目は多様化し、世界的にサーカスにおける馬の演し物の割合は減っていきました。

1850年にプログラムの4分の3を占めていた馬の芸は、1900年には4分の1に減ったそうです^{注4}。戦後の日本でも、児童福祉法が制定され子どもを曲馬の上乗りに使えなくなったことや、検疫の面倒さから外国のサーカス団が馬を連れてこなくなったこともあり、馬の芸は少なくなっていきます。馬のないサーカスなど考えられない蘆原は、その状況を嘆きつつも、馬が呼び物のサーカスの来日に期待を寄せ、馬の芸と匂いを堪能したのでした^{注5}。

■ピエロとクラウン

母のいとこである小山内薫^{注6}は、蘆原の演劇

注4 『馬のサーカス・大曲馬：企画展』馬事文化財団馬の博物館 編 馬事文化財団 2009 <請求記号 KD851-J6> p.[73]
 注5 『サーカス研究』p.123。初出は「手に汗にぎるジギトの曲馬」『サンデー毎日』1963年8月11日号。
 注6 小山内薫(1881-1928) 演出家、劇作家、小説家。土方与志と築地小劇場を創立するなど、日本の近代演劇の基礎を築きました。
 注7 Jean-Baptiste Gaspard Deburau (1796-1846) は、パリのフェナンビュール座で人気を博したマイム役者。白塗りの顔に白い衣装の「悲しきピエロ」のイメージを確立させました。
 注8 『サーカス研究』pp.92-93。初出は「サーカスのいのち」『美術手帖』1958年5月号。
 注9 『サーカス研究』p.59。初出は「グロックの死」『学燈』1960年10月号。

研究の師でもありました。その小山内からコメディア・デッラルテ (Commedia dell'Arte) の研究を命じられた蘆原は、慶應義塾大学の卒業論文で「ジャン・バチスト・ギヤスパール・ドビュロオ^{注7}とピエロオの発展史」を執筆しました。このことは、のちの蘆原の演劇研究やサーカス研究に大きく役立つこととなります^{注8}。

コメディア・デッラルテは、16世紀イタリアにおこった仮面即興喜劇で、役柄は定型化され、簡単な筋書をもとに即興で演じられました。ピエロは、その登場人物の型のひとつであるペドロリーノ (あるいはプルチネッタ) に由来するもので、のちにドビュロオが心理的にニュアンスに富んだ役柄に再創造したものです。

一方、サーカスに出てくる道化師は、日本ではピエロと呼ばれてきましたが、本来はクラウンと呼ばれるべきものです。蘆原は早くからそのことを指摘していました^{注9}。近代サーカスのなかで生まれ進化してきたクラウンは、コメディア・デッラルテに由来するピエロとは系統が異なるのです。

幕のない円形舞台で演目の合間をつなぎ、命がけの曲芸を見守る観客の緊張を笑いでほぐすのがクラウンの役割でした。やがて、クラウンたちは技を磨き、アクロバットを演じたり、楽器を弾いたり、長時間にわたって名人芸を見せるようになっていきます。また、初めは無言だったクラウンがしゃべるようになり、その相手役としてオー

ギュストというキャラクターが現れました。赤い大きな鼻にだぶだぶズボンのオーギュストは、愚鈍で不器用な役回り、クラウンとの面白おかしいコントで会場を湧かせます。

スイス出身のグロック^{注10}をはじめ、第一次世界大戦後のフランスで活躍したフラテリーニ兄弟^{注11}や旧ソビエト連邦のポポフ^{注12}など、多くの著名なクラウンを見てきた蘆原は、日本のサーカスにも真のクラウンが出現することを願っていました。

■さまざまなサーカス関係資料

蘆原英了コレクションには、日本では希少な洋図書のほか、プログラムやポスターなども含まれています。昭和8 (1933) 年、留学先のパリで観覧したと思われる、冬季常設のサーカス小屋シルク・ディヴェール^{注13}のプログラムをはじめ、来日した外国サーカスのプログラム、日本のサーカス団のポスターなど、珍しくもあり、懐かしくもある資料たちです。

蘆原が収集した洋図書にはアンダーラインや書き込みが多々見られますが、それと同様に、いくつかのプログラムにも蘆原の書き込みがあります。装置のスケッチやクラウン芸への感想、空中ブランコの脚の掛け方など、サーカス研究家の目で細かく観察し、メモを取っていたことがうかがえます (p24 上図)。

^{注10} Grock (1880-1959) は、ピアノやバイオリンの芸を得意とし、サーカスやミュージックホールで活躍した20世紀最大のクラウンのひとりです。

^{注11} Paul (1877-1940)、François (1879-1951)、Albert (1886-1961) のフラテリーニ兄弟 (Les frères Fratellini) は、イタリア出身でパリに定着したサーカス芸人の息子たちで、多くの芸術家や知識人に影響を与えました。

^{注12} Oleg Popov (1930-) は、旧ソ連の人民芸術家の称号を持ち、「太陽のクラウン」と呼ばれました。

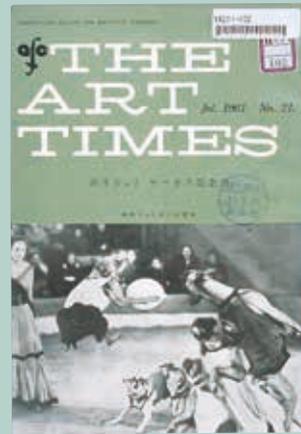
^{注13} 1852年に冬季常設サーカス小屋「シルク・ナポレオン」として創建され、のちに「冬のサーカス」(シルク・ディヴェール Cirque d'hiver) に改称されました。



「日独修好百年祭記念後楽園ドイツ大サーカス：後楽園アイスパレス」〔読売新聞社，報知新聞社〕
[1961] <請求記号 VA251-1145> *上部鉛筆書きが蘆原の書き込み部分



「モスクワ国立ボリショイサーカス日本公演
：東京体育館〔他〕」〔毎日新聞社，東京放送，
アートフレンドアソシエーション〕 1961
<請求記号 VA251-1788>

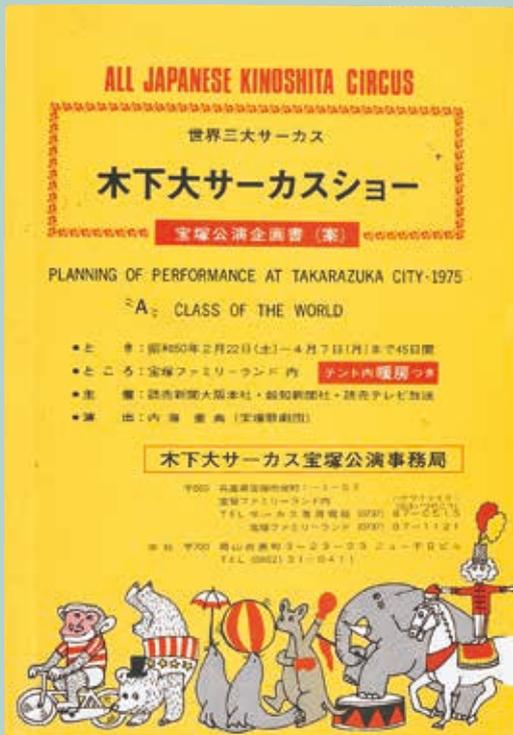


『The Art times』 No.21 アートフレンドの会
1961.7 <請求記号 VA211-102>
*このほか、No.3 (1959.4)、No.20 (1961.4)、
No.22 (1961.8) を所蔵しています。

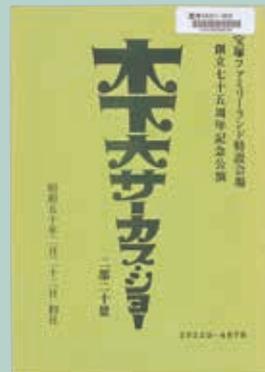
昭和33 (1958) 年に初来日したボリショイサーカスは大変な話題を呼び、3年後の再来日ではいっそう力が入った宣伝が繰り返されました。その充実したプログラムは写真24ページ、読物特集48ページからなり、手塚治虫の漫画や星新一の短編、森繁久彌のエッセイなども収録されています (上図 左下)。興行元の会報には座談会や裏話も掲載されていて、当時の熱狂を知る

うえで興味深い資料です (上図 右下)。

サーカス研究者として有名になった蘆原の元には、関係者ならではのものも集まったようです (p25図)。地方興行の企画書には蘆原が推薦の言葉を寄せ、司会のセリフやト書きの書かれたサーカス台本には出演者の変更なども書き込まれています。舞台裏を垣間見られる資料が含まれているのも、蘆原英了コレクションのサーカス関係資料の魅力でしょう。



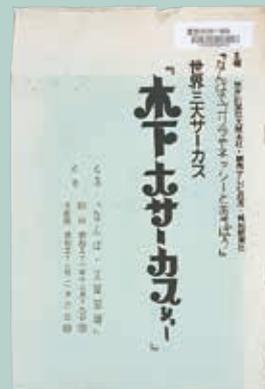
「木下大サーカスショー宝塚公演企画書 (案): 世界3大サーカス 宝塚ファミリーランド内」 [読売新聞大阪本社, 報知新聞社, 読売テレビ放送] 1975 <請求記号 VA251-1771>



「木下大サーカス・ショー: 二部二十景」 [1975] <請求記号 VA201-809>

公演台本
昭和50 (1975) 年2月22日
-4月7日 宝塚ファミリーランド特設会場

構成演出には、宝塚歌劇団の内海重典も参加しています。



「世界三大サーカス『木下大サーカスショー』」 [1976] <請求記号 VA201-808>

公演台本
昭和51 (1976) 年12月19日
-昭和52 (1977) 年2月6日
大阪球場

3回にわたってご紹介しました蘆原英了コレクションの世界はいかがでしたでしょうか。今回ご紹介した資料は、ほんの一部です。常に生の大衆芸能に触れながら丹念に集められたコレクションには、まだまだ心躍らせる資料がひそんでいることでしょう。

(利用者サービス部人文課 ^{へんみ} 邊見 ^{ゆきこ} 由起子)

蘆原英了コレクションは、東京本館人文総合情報室所管特別コレクションです。ご利用の際には、人文総合情報室カウンターへお申込みください。レコード、公演プログラム等、一部の資料の利用には、閲覧許可申請が必要です。

同室内コレクションコーナーでは、一部の資料を展示しています。また、錦絵の一部は、国立国会図書館デジタルコレクション (古典籍資料) (<http://dl.ndl.go.jp/#classic>) でも検索・閲覧できます。



蘆原英了氏

電子展示会 「錦絵でたのしむ江戸の名所」



トップページ <http://www.ndl.go.jp/landmarks/index.html>

3月18日から、国立国会図書館ホームページ上で江戸の名所を題材とした錦絵を紹介する電子展示会「錦絵でたのしむ江戸の名所」の提供が始まりました。国立国会図書館ではコレクションのひとつとして錦絵を所蔵しており、その中には江戸の名所を描いたものも数多く含まれています。本電子展示会では、江戸中心部の代表的な名所103か所の錦絵484点をタイトルや内容から選定し、紹介します。色鮮やかな錦絵からは当時の江戸の名所の賑わいや景観、季節の花々や娯楽などを垣間見ることができます。

■名所とは

名所は古くは「などころ」といい、和歌の歌枕に詠まれる特に名の立った地、名高い場所を指した言葉でした。しかし、江戸時代になって旅行が盛んになると、名所は実際に訪れることができる場所を指す言葉として用いられるようになり、各地に「名所（めいしょ）」が誕生します。

江戸は徳川家康が天正18（1590）年に入府してから作られた新しい都市のため、古くからの名所が多くありませんでした。しかし、都市の発展に伴い次々と現れる町並みや寺社などが名所とな

り、一大観光都市となります。名所は錦絵の題材として取り上げられるようになり、人々の間に浸透していきます。名所を描いた錦絵も手軽に旅行気分を味わえることから、人々にとっての大きな楽しみとなり、江戸土産としても大変な人気となりました。

■名所江戸百景

江戸の名所を描いた錦絵の代表的なシリーズに歌川広重が描いた『名所江戸百景』があります。安政3（1856）年から同5（1858）年に描かれた119枚の錦絵と目録から成る揃物で、江戸の四季折々の風景を描いています。その中の1枚が右の「日本橋雪晴」です。江戸で一番の賑わいを見せた日本橋を行き交う人々や、荷を運ぶ船、手前には魚を商う魚河岸が描かれ、遠景には江戸城や、富士山も見えます。

■名所ページ

本電子展示会の各名所のページには、その地を描いた錦絵の一覧とともに、名所の解説、現在の所在地、別称などの情報を載せています。また、「関連リンク」として、当館のデジタルコレクションに掲載されている、江戸の絵入り地誌『江戸名所



「日本橋雪晴」 一立齋廣重 画 魚屋栄吉 安政3
（『名所江戸百景』 <請求記号 寄別1-8-2-1>所収）

図会』の該当ページや、名所に関連する絵図にもリンクさせ、各名所をめぐる当時の文章や絵図をご覧いただけるようにしています。さらに、既存の電子展示会「写真の中の明治・大正」にもリンクをすることで、時代を経た後の名所の姿を写真でも振り返ることができるようにしました。また、錦絵には複数枚で一組の錦絵となる続き物があります。今回は風景をより楽しんでいただくために、複数枚の画像をつないで続き物全体を一覧できるようにしています（下図）。





■ 検索メニュー

名所や錦絵を様々な視点から探すことができるように、4種類の検索メニューを作成しました。

(1) 現在の地図から探す

(2) 江戸切絵図から探す (上図)

東京23区の地図をもとに探す「現在の地図から探す」と、江戸の詳細地図「江戸切絵図から探す」の2つのメニューがあります。江戸切絵図とは江戸時代の区分地図で、武家、寺社、町家、川や海、山林など、用地ごとに色分けされ、その色彩や、寺社の絵画的表現など錦絵風の親しみやすさから広く用いられました。この電子展示会では嘉永2(1849)年から文久2(1862)年の間に刊行されたものを使用しています。

現在の地図、江戸切絵図の両方の地図上に名所の場所を青色のピンで示しています。また、主要な名所だけでなく、錦絵に描きこまれている要素(門や堀、川など)や、名所を描いた錦絵の遠景に描かれている場所を地名ポイントとして黄色のピンで示しました。地図や各ピンの位置から錦絵

がどの方向から描かれたのかを推測することもできます。また、当時の街並みや海岸線の変遷なども知ることができます。

(3) キーワードから探す (下図)

桜やつばめ、祭りなど、季節の花や鳥、行事を題材としたキーワードから錦絵を検索できます。そのほかに、雨や雪、月などの自然の事象や、富士山や海など遠景に描かれる風景もキーワードとしました。それぞれの錦絵一覧からは江戸の民衆が季節折々の風景や行事を楽しみに名所へ繰り出



歌川 広重 初代 (うたがわ ひろしげ 1)
1797-1858
🔍 絵師から探すへ戻る

解説	歌川広重は門人。又は火消同心で、文化6(1809)年に跡も継ぐが、その後浮世絵師となる。はじめ美人画、武者絵、おもちゃ絵、役者絵や挿絵など幅広く活動したが、あまりなるわなかった。享保年間(1716~36)になると風景画を手掛けて人気となり、風景画家としての地位を確立した。
作画期	文政元(1818)頃~没年
別号・通称(よみ)	安藤 広重(あんどう ひろしげ) 一遊齋(いちゆうさい) 一編齋(いちひんさい) 一立齋(いちりゅうさい) 立齋(りゅうさい)



出典: [野村]文船『画像 2之巻』






す姿を見ることができます。

(4) 絵師から探す (上図)

今回掲載した錦絵を30名の絵師ごとに分類し、一覧できるようにしています。各絵師のページでは描いた錦絵の一覧に加え、絵師の略歴などの解説を付し、12名については肖像も載せました。また、絵師の年表も作成しましたので、錦絵の描かれた時代背景などもあわせてご覧いただけます。

このほか、任意のキーワードから錦絵を検索していただけるように、サイト内に検索窓を設置し

ました。地名、絵師名、季節のキーワードや解説文中の語句に加え、錦絵に描かれている特徴的な事物(船や店、動物など)をサブキーワードとして付与しています。

■コラムとクイズ

さらに楽しんでいただけるよう、コラムとクイズのページを作成しました。コラムは、「名所絵の誕生」、「錦絵の製造と販売」、「江戸の名物・名店」、「江戸名所記案内」、「明治の錦絵」の5つがあり、それぞれわかりやすく紹介しています。また、クイズでは当館所蔵の「江戸名所はんじもの」を取り上げました。はんじもの(判じ物)とは文字や絵画に隠された意味を当てるなぞ解きです。「江戸名所はんじもの」は江戸の名所をテーマとしており、それぞれの絵が江戸の地名を表しています。絵にカーソルを合わせるとヒントがポップアップするようになっており、正解からは名所のページにリンクしています。ぜひ江戸の絵解きクイズに挑戦してみてください。



「江戸名所はんじもの」 重宣 画 安政5
 (『おもちゃ絵』 <請求記号 寄別3-1-2-4>所収)

(展示委員会電子展示小委員会)

愛すべき製本用具たち

動力穴あけ機、^{すじおしき}筋押機、^{てぎかい}手機械、^{つのづち}角槌一物々しい名前たちですが、これらは製本工程で使用されるものです。資料保存課では、ハードカバーをつけて中身が傷まないように保護する事前製本や、破損、劣化した資料の補修製本を行っており、このような耳慣れない名前の製本用具が数多くあります。

まず、冒頭で名前の出た動力穴あけ機は、製本用の綴じ穴をあける電動ドリルです。複数の穴を同時にあけることができ、2cm程度の厚さの紙束なら一度に処理できます。接着剤で背を固めただけの無線綴じで、ページがバラバラに外れてしまったような資料を糸で綴じ直す時にこれが活躍します。B5判やA4判など通常の大きさの書籍であれば4穴、新聞など判型の大きいものには6穴のドリルを使います。穴をあける位置は、資料の大きさに合わせて調整できます。

筋押機は、厚い板紙に“折り筋”を付ける器具です。板紙を表紙に用いた資料を開きやすくしたり、劣化の進んだ資料を収納する、紙製の組み立て式保存箱の角を折り曲げやすくしたりするために使用します。紙の厚さに合わせて筋の幅を調節できます。

^{しめきかい}手機械、^{しめきかい}締機械、油圧締め付け機……これらは、万力の要領で、ページの束を挟んで固定し



角槌（表具の仕立てに使用する象牙製の槌）

たり、製本の終わった本を締めて形を整えたりする器具類です。手機械は手で持ち運びできる大きさです。締機械は人の背丈ほどある器具で、複数の本を一度に締めることができます。油圧締め付け機は電動で、締機械よりも更に大きな機械です。新聞など判型の大きなものを締めるときに使用します。これらは、頻繁に使用されるので、事務室内では「シメル」という言葉がよく聞かれます。

時代の流れとともに、手製本のための用具を作る専門業者も少なくなってきました。今では入手することが困難なものも多く、用具のメンテナンスはとても大事な仕事です。大型の機械類は、専門の業者に見てもらおうこともありますが、日々の手入れは、資料保存課の職員が自ら行っています。こうして大事に使用され数十年以上も活躍し、また次の世代の職員へ製本技術とともに引き継がれていきます。

（資料保存課保存企画係 TUKUMOGAMI）



お知らせ

■ 平成26年度 国立国会図書館 図書館情報学実習生を 募集します

大学（短大・大学院を含む）で、図書館での実習を含む科目を履修する学生を対象に、実習生を募集します。

○応募資格

- 大学（短大・大学院を含む）に在籍する学生のうち、図書館における実習を含む科目を履修する者。
- 大学（短大・大学院を含む）の長から推薦を受けた者。
- 実習日までに、実習期間中に発生した事故等に関する保険に加入できる者。

○応募方法

大学等の図書館情報学課程・司書課程等担当教員が学校単位でとりまとめて申し込んでください。実習希望者本人からの申込みは受け付けていません。

○募集期間

3月5日（水）～4月22日（火）（書類必着）

○実習期間

東京本館	9月1日（月）～12日（金）の土・日曜日を除く10日間
関西館	9月4日（木）～11日（木）の土・日曜日を除く6日間
国際子ども図書館	9月2日（火）～11日（木）の日・月曜日を除く8日間

○問合せ・申込み先

東京本館、関西館で行う実習

国立国会図書館 関西館 図書館協力課 研修交流係

〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3 電話 0774(98)1444(直通)

国際子ども図書館で行う実習

国立国会図書館 国際子ども図書館 企画協力課 協力係

〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49 電話 03(3827)2053(代表)

※ 申込みの際は、必ず国立国会図書館ホームページで詳細を確認してください。

国立国会図書館ホームページ(<http://www.ndl.go.jp/>)>ニュース(2014年3月5日)

URL http://www.ndl.go.jp/jp/news/news_index.html

お知らせ

■ 平成26年度 国立国会図書館 職員採用試験

平成26年度の職員採用試験を次のとおり実施します。

○ 職務内容

- 総合職試験・一般職試験（大卒程度試験）：調査業務・司書業務・一般事務等の館務
 - 総合職試験：政策の企画立案に係る高い能力を有するかどうかを重視して行う職員の採用試験
 - 一般職試験（大卒程度試験）：的確な事務処理に係る能力を有するかどうかを重視して行う職員の採用試験
- 資料保存専門職員採用試験（大卒程度試験）：各種図書館資料の保存修復業務、資料保存に関する企画・調査研究および当該専門的知識を必要とする業務

○ 勤務地

- 総合職試験・一般職試験（大卒程度試験）：東京都（東京本館・国際子ども図書館）・京都府（関西館） ※転勤があります。
- 資料保存専門職員採用試験（大卒程度試験）：主として収集書誌部資料保存課（東京本館） ※東京本館内での異動および関西館または国際子ども図書館での勤務もあり得ます。

○ 試験の概要 ※詳細は試験案内またはホームページで必ずご確認ください。

種類	大学卒業程度		
	総合職試験	一般職試験 (大卒程度試験)	資料保存専門職員採用試験 (大卒程度試験)
受験資格の概要*	昭和60年4月2日～平成6年4月1日生まれ（平成6年4月2日以降生まれでも、大学卒業または卒業見込みであれば可）	昭和60年4月2日～平成6年4月1日生まれ（平成6年4月2日以降生まれでも、大学・短大・高専卒業または卒業見込みであれば可）	昭和60年4月2日～平成6年4月1日生まれ（平成6年4月2日以降生まれでも、大学・短大・高専卒業または卒業見込みであれば可）
受付期間	平成26年4月1日（火）～4月17日（木）（消印有効）		
1次試験	平成26年5月11日（日）		
会場	1次試験は東京および京都で行います。2次試験以降は東京のみです。		

※日本の国籍をお持ちでない方、国会職員法第2条の規定により国会職員となることのできない方は受験できません。

※申し込むことができる試験の種類は1つのみです（総合職試験には一般職試験（大卒程度試験）と併願できる総合職特例制度があります）。



お知らせ

○ 受験申込書および試験案内の入手方法

東京本館および関西館で配布します。

郵便で請求される際は、封筒の表に「総合職試験・一般職試験（大卒程度試験）請求」、「資料保存専門職員採用試験（大卒程度試験）請求」のいずれかを朱書き、返信用封筒（角型2号）を同封してください。返信用封筒にはあて先を明記し、切手（140円）を貼ってください（総合職試験と一般職試験（大卒程度試験）は共通の書式です）。

○ 問合せ・資料請求先

国立国会図書館 総務部 人事課 任用係

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1 電話 03(3506)3315(直通)

URL <http://www.ndl.go.jp/jp/employ/index.html>

国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) > 採用情報

■ 消費税率の引上げに伴う 複写料金等の取扱いに ついて

平成26年4月1日から、消費税率（国・地方）が現行の5%から8%に引き上げられます。

これに伴い、複写料金等の消費税率も、製品の引き渡し日（後日郵送複写・遠隔複写の場合は当館発送日）が4月1日以降の分については8%となります。

お知らせ

■ 国際子ども図書館展示会 「絵本で知る世界の国々 —IFLAからのおくりもの」

国際子ども図書館では、4月22日から、展示会「絵本で知る世界の国々—IFLAからのおくりもの」(World Through Picture Books - Librarians' favorite books from their country)を開催します。この展示会では、IFLA(国際図書館連盟)児童・ヤングアダルト図書館分科会の「絵本で世界を知ろうプロジェクト」を通じて、国際子ども図書館に寄贈された約30の国や地域の児童書約300冊を展示します。

アメリカ、ヨーロッパ、アフリカやアジアなど、世界各国の図書館員が選んだその国の代表的な児童書を、直接手にとってご覧いただくことができます。

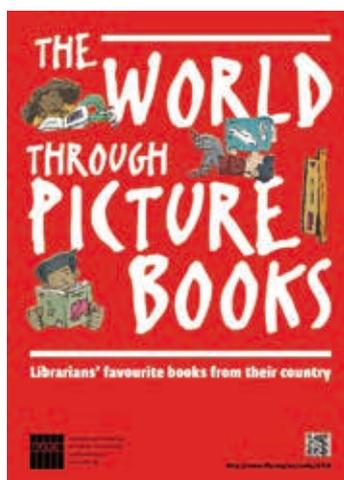
皆様のご来場をお待ちしています。

○問合せ先

国立国会図書館 国際子ども図書館 企画協力課

電話 03(3827)2053 (代表)

- 開催期間 4月22日(火)～5月25日(日)
- 休館日 月曜日、国民の祝日(こどもの日は除く)、資料整理休館日(第3水曜日)
- 開催時間 9:30～17:00
- 会場 国際子ども図書館3階ホール
- 入場 無料



お知らせ

■ 本の万華鏡（第15回） 「もう一つの 東京オリンピック」



2月27日（木）からミニ電子展示「本の万華鏡」第15回「もう一つの東京オリンピック」の提供を開始しました。

「東京オリンピック」というと、今からちょうど50年前に行われた1964年大会や、昨年開催が決定した2020年大会を思い浮かべる方が多いと思いますが、実は、1940年にも東京でオリンピックが開催される予定があったことをご存知でしょうか？今回の「本の万華鏡」では、「幻の東京オリンピック」とも呼ばれる1940年大会を中心に、日本とオリンピックの関わりを取り上げます。

第1章では、日本のオリンピック初参加であった1912年の第5回オリンピック（ストックホルム）以降の大会の様子や活躍した選手たちを紹介します。第2章では、開催都市立候補から開催決定まで、東京大会招致に尽力した人々の活動を追います。そして第3章では、時代が戦争へと突き進む中、大会返上に至った経緯を取り上げます。

○URL <http://www.ndl.go.jp/kaleido/entry/15/index.html>



写真1
1912年、第5回オリンピック（ストックホルム）大会初参加の日本選手団が入場する様子
野口源三郎著『オリムピック競技の実際』大日本体育協会 出版部 大正7

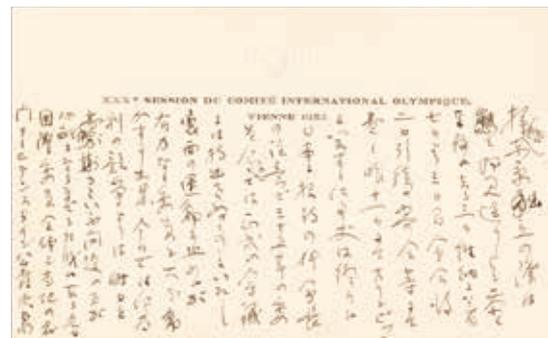
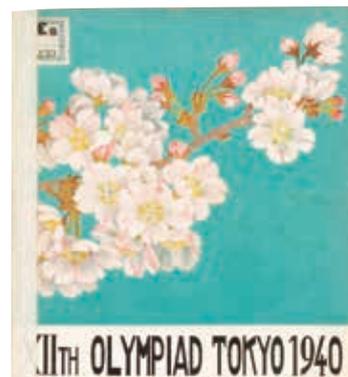


写真2
嘉納治五郎（IOC委員）から永田秀次郎東京市長に宛てた書簡（昭和8年6月12日付け）
＜永田秀次郎・亮一関係文書201-2＞



写真3
1940年東京大会のプログラム『第十二回オリンピック東京大会一般規則及びプログラム：昭和15年』第十二回オリンピック東京大会組織委員会 [昭和13]

写真4
1940年東京大会と日本を紹介する小冊子
XIIth Olympiad Tokyo 1940: olympic preparations for the celebration of the XIIth Olympiad Tokyo 1940
The Organizing Committee of the XIIth Olympiad Tokyo 1940 [1938]



お知らせ

■ 新刊案内 国立国会図書館の 編集・刊行物



レファレンス 757号 A4 79頁 月刊 1,050円 発売 日本図書館協会
介護保険制度改革をめぐる論点
スウェーデンにおける憲法改革提言—2つの学者グループが提案する政治不信
の拡大への対処策—
オーストラリアとニュージーランドの税・給付制度—累進度および再分配効果
と効率性等との相克— (資料)

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14 電話 03 (3523) 0812

訂正

本誌635 (2014年2月) 号の裏表紙掲載の書誌事項のうち、タイトルに誤りがありました。

(誤)「椋嶺花鳥畫譜 軾梅・鸚像」

(正)「椋嶺花鳥畫譜 蠟梅・鸚鵡」

CONTENTS

- 02 <Book of the month - from NDL collections>
Variations of Japanese business cards: History of *meishi* through *Meishifu*, *Udagawa Yōan meishi*, and *Harimazejō*
- 04 Passing on the memories: Efforts to collect documents related to the Great East Japan Earthquake
- 08 Strolling in the forest of books (12)
 Books born out of the Great East Japan Earthquake 2
- 20 Welcome to an exciting time: World of Eiryō Ashihara Collection
 3. Circus
- 26 Digital exhibition “The Landmarks of Edo in Color Woodblock Prints”
- 18 <Books not commercially available>
 ○ *Tōhoku chihō taiheiyōoki jishin hisai bunkazai tō kyūen iinkai heisei 23nendo katsudō hōkokusho*
 ○ *Tōhoku chihō taiheiyōoki jishin hisai bunkazai tō kyūen iinkai heisei 24nendo katsudō hōkokusho*
 ○ *Katarō! Bunkazai resukyū : Hisai bunkazai tō kyūen iinkai kōkai tōronkai hōkokusho*
- 30 <Tidbits of information on NDL>
 Our beloved book-binding equipment
- 31 <Announcements>
 ○ NDL accepts applications for internship on library and information science FY2014
 ○ Announcement of the employment examinations for FY2014
 ○ Change of copying charges with the increase in the consumption tax rate
 ○ Exhibition at the International Library of Children's Literature “World Through Picture Books - Librarians' favorite books from their country”
 ○ Kaleidoscope of Books (15) “The Lost Tokyo Olympics in 1940”
 ○ Book notice - Publications from NDL

国立国会図書館月報

平成 26 年 3 月号 (No.636)

平成 26 年 3 月 20 日発行 定価 525 円
(本体 500 円)

発行所 国立国会図書館
 編集責任者 田中久徳
 〒100-8924 東京都千代田区永田町 1-10-1
 電話 03 (3581) 2331 (代表)
 F A X 03 (3597) 5617
 E-mail geppo@ndl.go.jp

発売 公益社団法人日本図書館協会
 〒104-0033 東京都中央区新川 1-11-14
 電話 03 (3523) 0812 (販売)
 F A X 03 (3523) 0842
 E-mail hanbai@jla.or.jp

印刷所 株式会社正文社印刷所

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。
 本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。
 本誌 517 号以降、PDF 版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) > 刊行物 > 国立国会図書館月報でご覧いただけます。



「どうぶつのサーカス」 古屋白羊 著
ます美書房 [昭和27] 26cm
[国立国会図書館デジタルコレクション]でご覧になれます

国立国会図書館月報

平成26年3月20日発行 (毎月1回20日発行)
(3月号通巻636号)

発売：公益社団法人 日本図書館協会 定価525円(本体500円)